



University of Tsukuba Library

Annual Report

2015



筑波大学附属図書館
年報
2015
年度

目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2015

15

C O N T E N T S



1	1 館長挨拶
2	2 トレンド オープンサイエンス
3	3 フォーカス (2015 年度の特徴的な活動・事業) 1) 「筑波大学オープンアクセス方針」採択 2) 附属図書館ボランティア 20 周年記念事業 3) 学習を支援する環境の整備と活動 4) 附属図書館の広報活動 5) 専門図書館開館時間の延長 6) 展示 ①復元研究成果の公開 「よみがえる湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展」をふり返って ②平成 27 年度筑波大学附属図書館特別展 「数学の叡智—その探求と発展—」
12	4 資料紹介 Web 版群書類従 (正・続・続々)
13	5 職員の活動 1) 出張報告 (OR2015)・研修報告 (国立情報学研究所実務研修) 2) 論文発表・研修における講師等 3) 職員研修会
16	6 トピックス サービス・活動、企画・展示、見学・来訪者、オリエンテーション・講習会、 研修・シンポジウム、会議
20	7 メディアにみる附属図書館 1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事 2) 図書館の刊行物 3) 出版・放映・Web 上に掲載された所蔵・公開資料
22	8 附属図書館ボランティアの活動
23	9 組織図・歴代館長
24	10 統 計

表紙写真

上：中央図書館前に自生する桐の花
下：図書館ボランティアによるおり紙体験

裏表紙写真

左：学生選書ツアーにより購入した図書の展示
マナーアップキャンペーン展示
大学構内に植えられたヤエザクラ

右：図書館情報学図書館の貴重書庫
体育・芸術図書館のポスター整理作業
東京キャンパスエントランスから大塚図書館入口を望む
受賞の報告に学長室を訪ねたがまじゅんぱー



筑波大学附属図書館長

中山 伸一

開かれた大学図書館にむけて

「筑波大学附属図書館年報2015」をお届けします。

ご挨拶にかえて、2015年度の附属図書館におけるいくつかのトピックスをご紹介します。

図書館ボランティアが20周年を迎えたことは今年度の大きな話題といえましょう。生涯教育の一環として位置づけられた筑波大学の図書館ボランティアは単に知識・技能の提供だけでなくボランティアの皆さんの交流や意識向上を目指すという点に特色があり、それゆえ長く続いてきたものと考えます。今後も多くの方々が参加され、生涯学習を実現していただければ幸いです。

学習支援に関する大きなトピックスとして年度末に行われた中央図書館2階のフロアリニューアルがあげられます。グループ学習スペースを拡張し、より開かれた空間とざわめきを感じられるフロアが完成しました。多くの皆さんのご利用をお待ちしております。

中央図書館の開館時間延長は引き続き検討し、本年度は休業期間中の開館時間延長を正式運用としました。これにより全期間を通して中央図書館の開館時間が拡張することとなり、利用者の利便性が向上しました。7月以降は専門図書館の開館時間延長にも取り組み、筑波地区専門図書館における8時30分からの早朝開館の試行、医学図書館における休業期間中の開館時間延長の実施、大塚図書館における年末年始の時間外利用の実施等を行いました。

「ライティング支援セミナー」は対象を明確にし、ラーニング・アドバイザーによる「LAセミナー」は「伝える」をテーマにして本年度も実施しました。英語多読図書コーナーの設置に合わせて新たに開催した「多読入門セミナー」は多数の参加者を得て好評でした。

研究支援関係のトピックスとしては、冊子体の雑誌・新聞の見直しを行いました。長期的な展望のもと、大幅な雑誌・新聞の削減となりました。電子ジャーナル等をより有効に活用する等、代替の手段を最大限利用して下さい。

これまで、大塚図書館と筑波地区の間で行われて来た図書の取り寄せサービスを拡充し、筑波地区内の図書館の間でも図書の取り寄せを行えるサービスの試行を始めました。予算的に厳しい中で、資料を有効に活用するため、多くの方々に利用していただければと思います。

社会貢献・情報発信関係のトピックスとしては、恒例の附属図書館特別展があげられます。今年度は「数学の叢智—その探求と発展—」と題して、著名な数学者の貴重書に加え、和算に関する資料などを展示・

解説しました。2,800名を越える入場者があり、たいへん盛況でした。

また、今年度は入学式の時期にあわせて、「よみがえる湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展」を開催しました。筑波大学の歴史の古さを感じさせる展示で、こちらも多くの入場者がありました。

情報発信関係の大きな話題として、「筑波大学オープンアクセス方針」を採択したことがあげられます。まだ不十分ではありますが、大学図書館が学術情報流通の主たる役割を担い、研究者の成果を広く世の中に発信するための重要な制度です。

つくばリポジトリは10周年を迎え、その総コンテンツ数は順調に増加し、約37,000件になりました。「筑波大学オープンアクセス方針」の採択により、図書館はリポジトリに登録可能な論文を調査し、可能なものは登録できるようになりました。ただ、論文によっては著者最終稿が必要な場合もあります。筑波大学の研究成果を広く公開するために、引き続き皆様のご協力をお願いします。

附属図書館のキャラクターである「がまじゃんぱー」が、図書館総合展の図書館キャラクター・グランプリの「館の働き者」部門で初代グランプリに輝いたことは明るい話題としてあげられます。あわせて審査委員会賞も受賞し、その活動に高い評価が与えられました。「がまじゃんぱー」の今後の活躍に目が離せないところです。

さて、筑波大学附属図書館は国立大学図書館協会の理事館であり、国公私立大学図書館協力委員会、および大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議のメンバーです。最後に、これら学外に関連する状況も少し紹介しておきます。

電子ジャーナルの価格高騰は学術情報流通における大きな問題であり、連携・協力推進会議のもとに設置された大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)は、電子ジャーナルの契約条件の交渉等で一定の成果をあげてまいりました。機関リポジトリ(筑波大学のつくばリポジトリ)は、学術情報の情報発信を行う重要な役割を担っておりますが、連携・協力推進会議のもとにその取り組みを推進する組織を立ち上げることとなりました。オープンサイエンスを広めて行く中で、その成果が期待されます。

附属図書館は、以上のように皆様から見える所、見えない所で、その利用や来館の敷居をできるだけ下げる工夫をして、開かれた大学図書館を目指しております。多くの方々の更なるご利用と、附属図書館のこれら活動に対するご理解・ご支援を、この場を借りてお願い申し上げます。

(2016年3月31日)

オープンサイエンス

21世紀に入り、学術情報流通の世界にオープンアクセス(OA)の理念が広まってきました。OAとは

インターネット上において誰もが読み、ダウンロードし、コピーし、再配付し、印刷し、検索し、それらの論文のフルテキストにリンクを貼り、サーチエンジン等の索引付けのためにクロールし、データとしてソフトウェアに流し込み、その他あらゆる合法的な目的のために、インターネットにアクセスできることさえできれば、経済的、法的、技術的な障壁なく文献を利用できるようにすること

がその定義です。

OAの目的は、学術論文をインターネット上に公開することによって、世界中の人々に研究成果を伝え、人類の福祉に貢献することでした。

OAの実現には二種類あります。「セルフアーカイビング」と「OA雑誌(OAJ)」です。

「セルフアーカイビング」によるOAをグリーンロード、「OAJ」によるOAをゴールドロードと呼び対比されることもあります。「セルフアーカイビング」には二種類あり、ひとつは研究者個人が研究成果をWWW上で公開することで、もうひとつは研究者が所属する大学研究所などの機関が機関リポジトリを構築してWWW上で公開することです。筑波大学附属図書館が提供するTulips-R(つくばリポジトリ)は筑波大学の機関リポジトリです。2015年11月には教育研究活動のさらなる発展を目指して「筑波大学オープンアクセス方針」が採択されました。

機関リポジトリ数は世界全体で3,000を越え、日本国内にも約480存在します。この数はなお増え続けています。

「OAJ」は図書館が費用を払うのではなく、論文を掲載されることが決定した著者が費用を負担する形式で成立しています。その費用はAPC(Article Processing Charge(論文作成加工料))と呼ばれます。APCは一論文あたり2,000～3,000ドルが平均です。OAJは現在、数千誌刊行されています。中にはPLOS ONEのように年間30,000本以上の論文を掲載するOAJもあります。PLOS ONEには永田恭介学長はじめ筑波大学からの掲載も多数あります。

一方、APCを目的に査読の手を抜き、低品質の論文をOAとして刊行するハゲタカ出版社(predatory publishers)の問題も顕在化しています。この点は注意が必要です。

さらにこの数年、学術情報流通の世界に「オープンサイエンス」の概念が広まってきました。オープンサイエンスとは、公的研究資

金を用いた論文、研究データ等をインターネットを通じて広く容易にアクセスできるようにすることです。OAの発展系とみなすこともできますし、公的研究資金執行のアカウンタビリティとみなすこともできます。これにより質の高い科学、共同研究の増加、そして公的研究の社会的および経済的影響の増大につながり研究と社会との関係を支援する手段となる、とされています。



2003年に米国国立衛生研究所(NIH)がデータ共有方針を発表し、「データ管理計画」の提出を義務化しました。2007年、英国のウェルカムトラスト財団が、そして2011年には米国科学財団(NSF)と各国の研究助成機関が次々とデータ公開を義務化しました。

日本においては義務化は進んでいませんが、内閣府は2015年3月『国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会』の報告書を公開し、文部科学省の科学技術・学術審議会学術分科学術情報委員会は、2016年2月『学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)』を公開しています。

これらにおいては研究成果の公開についての基本的方策や基盤整備の方向性が示され、大学図書館のなすべきことについても記述されています。たとえば、機関リポジトリの構築を進めてきた経験からリサーチアドミニストレーター(URA)や技術職員と協力して、積極的な役割を果たすよう期待されています。

実際に、海外の大学図書館はリポジトリによるデータ公開や、利用者へのガイダンス、大学の方針やロードマップの策定を行っています。日本の大学図書館も、こうした潮流に対応するための準備を着々と進めています。

インターネットの登場や情報通信技術(ICT)の急速な発展によって科学研究のあり方は大きく変わりつつあります。しかし、科学研究を支援することや、その成果を人類の財産として長期的に保存し、利用に供することは、今も昔も変わらない大学図書館の重要な役割です。

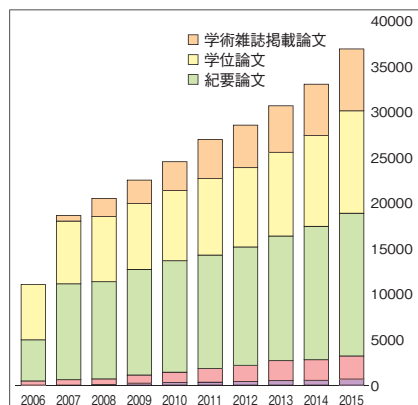
(大学院図書館情報メディア研究科 池内 有為
図書館情報メディア系教授 逸村 裕)

1.「筑波大学オープンアクセス方針」採択

1. オープンアクセスと機関リポジトリ

筑波大学は、学内の教育成果を網羅的に収集・発信し、本学の認知度を向上させつつ、社会貢献及び学術研究の発展に寄与することを目的として、2015年11月19日に「筑波大学オープンアクセス方針」を採択しました。

オープンアクセス(OA)とは、学術研究の成果(狭義には査読つき学術雑誌に掲載された論文)を、インターネットを通じて誰もが無料で利用できるようにする活動です。著者が掲載料を負担してオープンアクセスジャーナルに成果を公表する方法(ゴールドOA)と、機関リポジトリを利用する方法(グリーンOA)があります。情報のデジタル化とインターネットの普及が進んだ1990年代に始まり、日本では大学を中心として機関リポジトリによる公開が推進されてきました。本学の「つくばリポジトリ」は2006年3月に公開され、10周年を迎えた2016年3月現在、収録コンテンツ数は37,000件を越えています。



つくばリポジトリ コンテンツ数の推移

2. オープンアクセスとオープンサイエンスの動向

学術情報のオープン化に関して、日本ではこの1年間に急速な進展がありました。2015年3月には、論文だけでなく研究データの公開と利活用を目指すオープンサイエンスの取組みについて内閣府の報告書がまとめられました。

2016年1月に閣議決定された「第5期科学技術基本計画」は、公的資金による研究成果の利活用を可能な限り拡大することを国の基本姿勢と定めています。また、2016年2月に公表された「学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)」(科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会)も、公的研究資金による研究成果のうち、論文及び論文のエビデンスとしての研究データは原則公開すべきであるとし、大学に期待される役割として「グリーンOAの基盤として機関リポジトリを拡充する」こ

と「オープンアクセスに係る方針を定め公表する」ことを挙げています。

3. 筑波大学の取組み

オープンアクセスの取組みによって、大学等は社会に対する説明責任を果たすとともに、研究成果の利活用を促進し、分野を超えた新たな知見の創出や効果的な研究の推進に資することが期待されています。国際的に存在感のある研究大学を目指す筑波大学では、2016年4月から始まる第3期中期計画に、オープンアクセス方針の策定とオープンサイエンスの推進を盛り込むことになりました。

つくばリポジトリを運営する附属図書館では、状況の急速な進展に鑑み、中期計画を前倒しで実施することとし、「筑波大学オープンアクセス方針」策定の準備を開始しました。方針は、附属図書館運営委員会の承認の下、教育研究評議会の審議を経て、11月19日に採択(学長決定)されました。

つくばリポジトリは、これまで本学の研究成果を収集・公開してきましたが、方針の採択によって、登録手続きが一部簡素化され、より多くの成果をより速やかに公開できるようになります。教員の負担を軽減するため、掲載誌の著作権ポリシーの確認や登録作業は、これまで通り附属図書館の担当職員が行います。しかし、論文によっては著者最終稿を提供いただくことや共著者の許諾を得ていただくことについて、教員の協力が必要です。

そこで、2016年1月から2月にかけて、学内13箇所で開催しました。質疑では「共著者全員の許諾を取るの難しい」「出版社版でなく著者最終稿から引用が行われることで混乱は起きないか」「論文を提供した研究者が出版社のペナルティを蒙ることがないようにしてほしい」等の懸念の声も聞かれました。また「研究データは扱えるのか」「(芸術系などの)作品は登録できるか」など、現在のつくばリポジトリが十分対応できていない点について、機能の拡充を求める意見もいただきました。

4. まとめ

オープンアクセス方針は、本学の教育研究成果の積極的な発信と、本学の認知度の向上を目的とするものであり、論文の投稿先を限定したり、自由な研究を阻害したりするものではありません。附属図書館では、引き続き、教員の方々の理解と協力を求める活動を行い、つくばリポジトリを「大学の知の集積と発信システム」の中核として整備・拡充していきたいと考えています。

(副館長 江川 和子)

2. 附属図書館ボランティア20周年記念事業

1. 20周年を迎えた図書館ボランティア

附属図書館ボランティアは、1995年6月に発足し、2015年に20周年を迎えました。開かれた大学図書館として地域社会との連携を理念の一つとする筑波大学附属図書館が、生涯学習に対応した大学図書館サービスを目的として、地域住民にボランティア活動の機会を提供すべく導入した制度です。登録するボランティアの人数は毎年約50名。新入生や留学生、海外来訪者への図書館案内、書架整備や図書修理、障害者サービスなど様々な利用者支援を行っています。図書館ではボランティアと共に、一年間を記念事業の年として、イベントや記念誌発行など様々な事業に取り組みました。

2. 附属図書館ボランティア20周年記念行事

2015年6月1日(月)大学会館国際会議室及び大学会館プラザにて記念行事を開催しました。

■第1部 記念式典

式典にはボランティアを中心に、永田学長をはじめとする学内関係者、図書館関係者など108名が出席し、中山館長の挨拶、学長挨拶とボランティアへの感謝状及び記念品の贈呈、ボランティア代表の挨拶が行われました。「50名が20年間で延べ1,000人の方々の功労に感謝」との学長の言葉が印象的でした。記念品は図書館のロゴ入りエプロンで、活動中に図書館内で目につきやすいようにと鮮やかな黄緑色のデザインです。



■第2部 記念講演会

講演会は、筑波大学体育系真田久教授の「オリンピック、ボランティア、図書館」という演題で、ご専門であるオリンピックをテーマにそれにまつわる図書館とボランティアのエピソードや、スポーツボランティアに求められるものなどについての講演でした。元ボランティア専門委員会委員長としてボランティアの良き理解者でもある真田先生のお話はボランティアの心を掴み、101名の参加者は熱心に耳を傾けていました。



■第3部 交流会

場所を大学会館プラザに移し交流会を開催しました。ボランティアのOBも遠路駆けつけ、学長はじめ歴代職員なども参加、総勢82名が集い、思い出話や体験談などで終始和やかな祝賀の会となりました。中山館長を囲み記念撮影も行いました。



3. 記念誌「進化する図書館ボランティア」の発行

記念行事とともに20周年記念事業の大きな取組みのひとつが、記念誌の発行です。編集ワーキングメンバーはボランティアと職員とで構成し、構想から原稿執筆、校正や関係機関への発送作業など、準備から約3年をかけ、2015年3月31日「進化する図書館ボランティア：筑波大学附属図書館ボランティアの20年」が刊行されました。タイトルは20周年を迎えるにあたりボランティアが掲げたテーマで、20年間で振り返るだけでなく更に成長し貢献したいという意欲と願いが込められています。ボランティア全員が執筆し、活動中の写真も全員掲載を目標に、2015年度活動ボランティアが総力で作り上げました。図書館のWebサイトからも閲覧できます。

(<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/about/volunteer>)

4. 企画展示

2015年5月25日～6月5日、中央図書館ラーニング・スクエアにて、「図・ボラの会」主催の20周年記念企画展示を行いました。「図・ボラの会」は、ボランティア相互の理解と交流を目的とした自主組織です。日頃のボランティア活動の様子を撮影した写真パネルや、実際に手掛けた修理図書、日本文化紹介のおりがみ作品などをディスプレイするなど、ボランティア活動を利用者に身近に感じてもらえ





困ったときはボランティアカウンターへ

るよう工夫した展示でした。同内容の展示を期間と場所を変え、9月7日～18日、体芸図書館でも開催しました。

5. 記念植樹

2015年10月28日のボランティア懇談会終了後に、20周年記念植樹を行いました。樹木は「蠟梅(ロウバイ)」です。花の少ない真冬にロウ細工のような花びらと芳香で存在感を放ち「慈愛と先導」という花言葉を持つこの記念樹が、常に学ぶ心と貢献の気持ちで活動するシニア世代のボランティアにぴったりです。ボランティア駐車場からの歩道横に、まだか細い枝ですが小さい芽吹きをたくさん見つけました。成長が楽しみです。



6. キャラクター缶バッジ

附属図書館のキャラクターに、一年間限定の「ぼらじゃんぱー」が仲間入りしました。ボランティアのメンバーがデザイン原案を作成し、職員がアレンジして缶バッジを製作。ボランティアと職員がバッジを付けることで一体感を持って20周年記念事業の

年を盛り上げました。記念式典来場者にも記念グッズとして配付しました。この「ぼらじゃんぱー」は記念樹の樹木プレートにも刻印し、心に残るメモリアルキャラクターとなりました。



7. その他

「図・ボラの会」で毎月発行する会報は2013年には200号を越えており、20周年を機に創刊号～200号の合冊製本を行うこととなりました。製本の得意な図書修理メンバーによる一刺し一刺しの手作業でしたが、表紙や背文字のデザインなどもオリジナルで、貴重な記録資料が出来上がりました。

また6月には常陽新聞社による取材を受けました。活動20年のベテランボランティアが思いを述べ、「筑波大図書館ボランティア20年 公募50人、案内や環境整備」の記事が掲載されました。(2015年6月18日)

8. おわりに

1995年に初めてボランティアが図書館内に誕生したとき、このような形で20周年のイベントを執り行うことになるとは誰も思いも寄らなかったのではないのでしょうか。ボランティアは図書館職員ができないきめ細かなサービスの提供や、利用者目線での発想、更にその意見を代弁するなど、取り入れたメリットは大きく、筑波大学附属図書館のユニークな制度として定着しました。個性豊かなシニア世代が中心のボランティアですが、好奇心や向上心に溢れ、利用者へのサービス精神も旺盛です。高齢化や活動の見直しなど課題を整理し解決するとともに、社会の変化や大学のグローバル化、図書館を取巻く新しい動きにも目を向けボランティアと図書館が一体となって「進化」しよう意識した一年でした。

(見学・ボランティア担当専門職員 原澤 仁美)

3. 学習を支援する環境の整備と活動

1. 学習支援環境の整備

■1-1. フロアリニューアル

筑波大学附属図書館では、2011年9月に中央図書館本館2階に設置したラーニング・スクエア(LS)をはじめとして、場所・資料の整備、人的サポートの充実、講習会・セミナー等によって学生の学習支援環境の充実を図ってきました。LSの設置から5年目を迎えるにあたり、利用形態の更なる多様化を促すためのリニューアルを行いました。

今回のリニューアルの柱はグループ学習スペースの拡張です。多様な専攻・研究分野を擁する筑波大学の特性と、学生の学内交通の要衝という立地を生かした、分野の枠を越えた学びへの働きかけを行うため、より開かれた空間とざわめきを感じながら学びを上げられる環境づくりを目指しました。

資料の移動と書架の撤去によって広げられた空間には、学生同士が出会い、語り合い、学び合える場となるようにとの願いを込めて「チャットフレーム」と名付けました。移動可能な什器による拡張性を活かして、後に触れる授業やセミナーの場としても活用していきます。



新たにゾーン分けされた中央図書館本館2階

■1-2. ライティング支援ポータル参加

2015年12月に公開された「筑波大学ライティング支援ポータル」¹⁾は、2015年2月に学長副学長懇談会で承認され

た室横断タスクフォース(Cross Sectional Initiative: CSI)のひとつ「CSI-9 全学ライティングセンターの設置」で行われた検討の成果です。

センター設置の準備段階として、学内各組織の取り組みを一覧できる「ポータル」を用意して学生が必要とするサービスを一元的に提示することを目指し、学生サポートデスクやライティング支援セミナーなどの取り組みを行っている附属図書館が中心となって取り組み状況の紹介とWebページ作成を行い、公開に至りました。

本ポータルによって情報提供が一元化された本学のライティング支援の取り組みは、今後、担当者の情報共有やスタッフ教育の共通化などの課題解決に向け、サービス間の連携を強化していく必要があります。

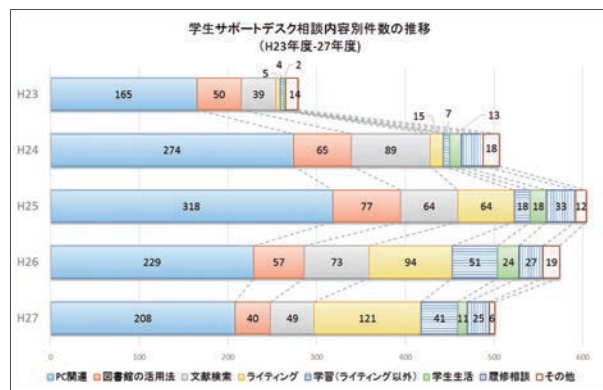


チャットフレームの移動可能な什器

2. 学習支援活動

■2-1. ラーニング・アドバイザー(LA)の活動

2015年度にLAが学生サポートデスクで対応した学習相談は501件でした。そのうちライティングに関する相談は121件(前年度比1.3倍)と年々増加しています。新しい試みとして、相談者の利便性向上を図るため、LAの所属や相談時刻をWeb上で予約できる「予約制」を10月から1月にかけて試行しました。



また、LAが企画・運営する「LAセミナー」では、『伝える』をテーマに「研究のアウトプット」と「研究助成に関する申請書の書き方」に焦点をあてたセミナーを計3回行いました。後者のセミナーでは、URA研究支援室から講師を招き、LAや日本学術振興会特別研究員をアドバイザーとしたグループワークを行うという新たな実施形態が受講生から大変好評でした。こうした活動により参加者同士の学術的な交流が一層促進されたことから、今後LSが学内の学術コミュニティの交流拠点となるよう更なる活性化を図っていききたいと思います。

■2-2. ライティング支援セミナーの見直し

2012年10月にスタートした「ライティング支援連続セミナー」については、開始から4年目を迎えて大きな見直しを図りました。これまでは「連続」セミナーとして、振り返りシートやしおりを作成して継続しての参加を促してきましたが、2015年度はそれぞれのセミナーを切り離し、「大学生入門」「大学生基礎」とタイトルやポスターに対象を明示しました。この結果、全体としての参加者数は減りましたが、よりニーズに即した学生の参加を促すことができました。また、2014年度に東京キャンパスで開催して好評を得た「自分を守る情報リテラシー」についても「大学院生入門」として継続して開催しています。

■2-3. 多読入門セミナーの開催

附属図書館ではこれまで学生用図書を整備して学習活動や学生生活の支援を行ってきました。特に2015年度は中央図書館に英語多読図書コーナーを設け、電子ブックのリーダーも整備し、更に英語多読について知ってもらう機会として、計3回の多読入門セミナーを開催しました。

セミナーは本学大学院生の3名を講師としてLSのオープンスペースで行われました。毎回約50名の参加者を得て、個々人の多読のレベルを知るためのアクティビティなどもあり、アンケートでは多読を始めるきっかけになったという感想も多数いただいています。2016年度も引き続き多読図書の充実を図り、新入生向けのセミナーを開催する予定です。

■2-4. 大学院共通科目「ザ・プレゼンテーション」

この科目は、附属図書館でもLAとして活躍する大学院生からの発案で、学長をはじめとした多くの教員や職員、学外の講師を巻き込みながら秋学期の3か月をかけてLSのオープンスペースで実施されました。講義の前半で講師の専門分野について、異分野の人にも分かりやすいプレゼンを実演し、後半ではその

プレゼンの中身について、どこを工夫したのかをレクチャー。あわせて附属図書館に所蔵されている資料の中から各講師のおすすめ本を展示し、講義の中で紹介していただきました。

正規の科目として履修を登録している学生だけでなく、通りの学生や見学者の聴講もあり100名を超える参加者を記録した回もありました。この成果は年度末のフロアリニューアルの際に、レイアウトや仕具の検討に大きく役立てられました。



通りの参加も多かった「ザ・プレゼンテーション」

■2-5. 学習・教育支援の体系化

LSの開設を契機として、図書館職員が図書館の活用法を説明する従来型の講習会に加え、前述のように、教員や学生を講師とした多様なテーマのセミナーの企画が生まれるようになりました。そこで、実施したセミナー等の全体像を把握し、その対象やテーマを点検するため、「学習・研究支援体系図2015」²⁾を作成しました。

作成にあたっては、国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会により策定された「高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版」³⁾に基づき、学習者が情報を活用するプロセスの場面とレベルによって、各セミナー等を分類・配置しました。これにより、これまで取り上げたことのないテーマや対象からもれていた学年を明らかにすることができました。

この取組みは、文部科学省HPの「大学図書館における先進的な取り組みの実践例」⁴⁾の中でもふれられています。この成果を、今後の学習支援活動の展開に生かしていきたいと考えています。

(学習支援推進WG)

注 1) <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/wsp/>

2) <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/about/systemdiagram>

3) <http://www.janul.jp/j/projects/sftl/index.html>

4) http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/02/17/1361417_06_2.pdf

4. 附属図書館の広報活動

1. 図書館キャラクター・グランプリ受賞

11月の図書館総合展で開催された第1回図書館キャラクター・グランプリで、附属図書館公式キャラクターとして10年にわたって活躍してきた「がまじゃんぱー」が参加146組の中から「館の働き者」部門の初代グランプリに輝き、同時に審査委員会賞を受賞しました。

がまじゃんぱーは2006年3月に公開された「つくばリポトリ」を宣伝するためのキャラクターとして、ペアを組んで活躍する人型キャラクターちゅーりっぷさんとともに、職員による検討を経て2005年に生み出されました。図書館情報学のテキストに活用されたり、実体化された姿で学園祭に登場したり、図書館キャラクターでありながら職員だけでなく学生や教員が主体的に活用することが愛着を生み、図書館への注目度の向上にもつながっています。11月の学園祭では図書館情報学以外の専攻の学生による映像企画にも活用され、更に裾野は広がっています。時にはキャラクターのぶれもありますが、そこも味の一つとして親しまれています。



永田学長(中央)に受賞を報告する中山館長(右)とがまじゃんぱー

2. プロモーションビデオとチュートリアルビデオの制作

2008年に制作された附属図書館プロモーションビデオ(以下PV)「週5図書館生活どうですか? The Movie」は全体が長すぎてオリエンテーション等で最後まで上映できないという悩みを抱えていました。これを解決するため、図書館の魅力を伝える短時間のPVとそれぞれのサービスを説明するチュートリアルビデオとに分けて新たに広報ビデオを制作することが決まり、職員によるチームが編成され、2015年度には「Tulips Searchの使い方」等15本のチュートリアルビデオが附属図書館HPの該当の説明文に添えて公開されました。これらのビデオでは、図書館の基本的な利用方法についての分かりやすい解説を、1本3分程度で見ることができます。

今回のチュートリアルビデオの制作に当たっては、図書館情報学の授業に向けた教材作成等でこれまでに培われたノウハウをより多くの職

員で共有する効果も得られました。新たなPVの制作も2017年度の公開に向けて検討が始まっています。

3. Webページの英文化・読み上げ対応と整備

附属図書館のホームページをより使い易く便利にするため、機能の改良を行ないました。

利用者からの要望に対応するために、サイト内検索機能の追加やマイライブラリへの貸出履歴照会機能の追加などを行い、ディスカバリーサービス機能のさらなる充実を図りました。

加えて、留学生へのサービス向上と国際的な視認性を高めるために、英文サイトを充実させました。現在は、日本語サイトの6割程度が英文サイトとして利用可能となりました。

また、視覚障害者によるホームページの利用を考慮し、読み上げ対応ページを作成しました。ページの作成にあたっては、視覚に障害のある本学教員のご意見を伺いながら内容を検討し、テキスト版を作成しました。



視覚障害者向け読み上げ対応ページ

4. TwitterとFacebookの運用体制

2011年3月から運用開始した附属図書館公式Twitterと、2013年10月から開始した附属図書館公式Facebookは、更新頻度の高さと内容の充実ぶりが多くの注目を集めており、2015年度末時点でTwitterは5,000フォロワー、Facebookは1,400いいね!を達成しています。これらの更新には職員13名によるSNSチームが携っており、利用者である学生や教職員、学外の方に附属図書館に親しみを持ってもらい、資料やサービスを活用して頂ける投稿になるよう、日々ネタ探しに勤しんでいます。附属図書館での講習会、展示の情報だけでなく学内の各種イベントの広報、大学や周辺地域の風景や歴史について、時には季節の行事に合わせた少しくだけた内容も交えながら、学生や教職員、学外の方に伝えたいことを吟味して、各メンバーが附属図書館の顔としての責任感を持って日々の投稿に取り組んでいます。

(企画渉外担当/広報WG 石津 朋之)



グランプリ受賞を永田学長にご報告

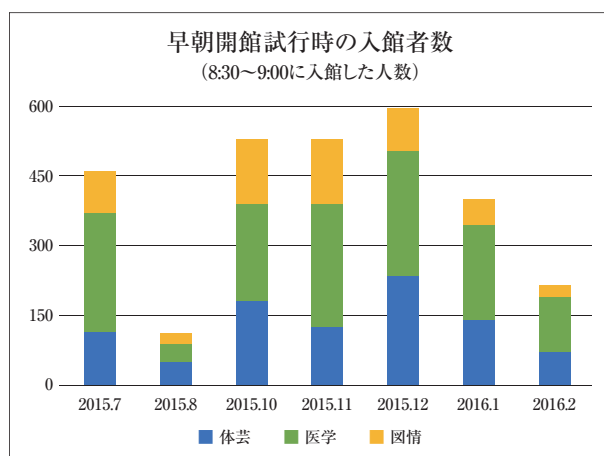
5. 専門図書館開館時間の延長

1. はじめに

附属図書館では、2012年度から段階的に中央図書館の開館時間延長に取り組んでおり、2015年4月からは中央図書館の休業期間中の開館時間延長を正式運用とするなど利用者サービスの向上に努めてきました。7月以降、より多くの利用者の利便性向上のため、専門図書館の開館時間延長に関する新たな取組みを複数実施しました。

2. 筑波地区専門図書館の早朝開館

筑波地区の専門図書館(体育・芸術図書館、医学図書館、図書館情報学図書館)は、授業期間中の平日の開館時間を30分早め、8時30分とする試行を2015年7月から実施しました。開始当初から各館ともに利用が順調に推移し、目に見える利用者サービスの向上に結びついた取組みとなりました。この早朝開館は、2016年度からは正式運用となります。



年間で2,884名にご利用いただきました!

3. 医学図書館の休業中の開館時間延長

医学図書館の主なサービス対象である医学類は、大学の夏季・春季休業中にも授業を実施しており、学生から医学図書館の開館時間を授業期間中と同様に延長して欲しいとの要望が寄せられていました。医学図書館と医学群・医学類との調整により、夏季休業中の9月、春季休業中の一部については学期中と同様に22時まで開館時間を延長することとなりました。2015年度の2月の春季休業から試行を実施し、2016年度以降も医学類との授業実施期間とのずれを調整するため、休業中の一部期間について開館時間の延長を実施することとなりました。

4. 大塚図書館の年末年始の時間外利用

東京キャンパスにある大塚図書館は、夜間大学院に通う社会人学生が多く利用しており、開館時間もそれに合わせた特殊な運営をしています。これまで年末年始の期間(12/29～1/3)は休館としており利用ができませんでしたが、時間外利用というかたちで入館できるようにしました。この結果、6日間で約700名の利用があり通常期の土日と同様の需要があることがわかりました。この取組みは2016年度以降も継続することとなりました。

5. さらに利用促進のために(搬送取寄せの試行)

開館時間の延長により来館者の利便性を高めるほかに、各館に所蔵する資料を利用しやすくするための取組みも行っています。

従来、筑波地区の各図書館⇄大塚図書館間の圖書の取り寄せサービスを拡充し、筑波地区内の各図書館(中央・体芸・医学・図情)の図書もどの館でも受け取ることができるサービスの試行を行ないました。返却についてはすでにどの館からでも返せるサービスを実施していますので、今回の試行によって「どこからでも取寄せでき、どこにでも返せる」環境が整いました。同一キャンパスとはいえ、各館間の移動に自転車・バス等が必須なほど広大な敷地を持つ筑波大学の学生にとって、利便性の高いサービスであるといえます。

春休み期間の試行を経て、平成28年度も試行を継続することが決定しました。

2016年4月からの各館開館時間

筑波キャンパス		学期中	休業中
中央図書館	月～金	8:30～24:00	9:00～20:00
	土・日・祝	9:00～20:00	9:00～18:00
体育・芸術図書館、 図書館情報学図書館	月～金	8:30～22:00	9:00～17:00
	土・日・祝	10:00～18:00	休館
医学図書館	月～金	8:30～22:00	9:00～20:00*
	土・日・祝	9:00～22:00	

*2月と9月は学期中と同じ時間(医学図書館)

東京キャンパス	月	火～金	土	日	祝
大塚図書館	10:30～18:30	10:00～21:10	10:00～19:50	10:00～18:00	休館

(情報サービス課長 佐藤 初美)

6. 展示

1. 復元研究成果の公開

「よみがえる湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展」を
ふり返って

芸術系教員による復元研究チームは三菱財団の研究助成を得た2004年以来、10年以上にわたり、科研費の助成を得て、当該研究に取り組んできた。その背景には湯島聖堂大成殿の本尊孔子像が関東大震災の折に失われ、本尊孔子像復元を研究の一環で取り組みはじめたことにある。

2008年には復元成果である孔子像を湯島聖堂に安置。さらに、その後湯島聖堂絵画の悉皆調査の過程で、渡辺小華(渡辺華山の息子)が描いた孔子像から彩色復元を進めることができ、湯島聖堂に安置した金銅製本尊孔子像の雌型を再度用いて、漆による造形、いわゆる乾漆像を制作し、その上から渡辺小華の描いた孔子画像を典拠に彩色復元をしたのである。

乾漆像というのは高崎だるまで知られるように中が空洞で成型できるため、軽くて長期にわたってその姿を保持できる。たとえば奈良興福寺の阿修羅像も乾漆像で、奈良時代から今まで損なわれずに伝来しているのである。そのように仏教美術の成果を生かした乾漆の孔子像に日本画顔料で彩色した。本尊である孔子像は1632年に京都七条大仏師康音によって制作されたことが確認できたため、乾漆像は仏師が行う造像の仕方、中国に見られない仏像の胡坐、仏坐像の形式で制作された。

芸術系教員による研究チームは復元研究の根拠資料の解釈を



湯島聖堂大成殿本尊復元彩色像

守屋(美術史)が担当し、造像は柴田良貴教授(彫塑)、彩色は彩色のためのCG復元画像を木村浩准教授(情報D)、藤田志朗教授(日本画)監修のもと、彩色は程塚敏明准教授(日本画)が担当した。

展覧会は2015年4月3日から12日までの会期で筑波大学附属図書館で公開され、NHKでは首都圏、さらには全国に本研究成果が紹介された。また地域の取り組みとして茨城新聞に大きく報じられた。

(芸術系教授 守屋 正彦)



筑波大学所蔵狩野派絵画資料

彩色復元のための孔子像下絵に見入る永田学長(右)と、
三明理事・副学長(研究担当)(中央)

2. 平成27年度筑波大学附属図書館特別展

「数学の叡智—その探求と発展—」

2015年度の特別展は、「数学の叡智—その探求と発展—」と題して、9月28日(月)から11月8日(日)まで中央図書館貴重書展示室で開催しました。

今年度の特別展は、附属図書館と人間系との共催により開催し、人間系の磯田正美教授、医学医療系の讃岐勝研究員の企画・立案のもと、附属図書館職員9名のワーキンググループが、研究開発室のプロジェクトを担当する人文社会系の谷口孝介教授、山澤学准教授のご協力を得て実施にあたる体制となりました。

本展示は、本学が所蔵する著名な数学者の貴重書に加え、和算に関する資料など約30点を展示するとともに、高校数学までの知識で読み解ける数学の歴史を紹介し、その歴史文化的価値や教育的重要性を一般に広く公開したものです。これまで、附属図書館が行ってきた展示は、人文社会系領域の内容のものが多数を占めていましたが、今回は数学という理数系領域の内容での展示が行われたことにより、附属図書館の貴重書の多様性が改めて明らかになりました。特別展の会期中には、関連企画としてTsukuba Global Science Week 2015のセッションが行われ、海外の研究者も多数来館しました。また、教員による特別講演会やギャラリートークを開催し、期間中の来場者は、小学生から一般の方まで広範囲にわたる2,898名でした。これは、約20年にわたる特別展史上3番目に多い来館者数となりました。

展示全体は5部構成で、それぞれのテーマに沿って貴重な資料の展示を行いました。第1部「古代ギリシャの叡智」では、古代ギリシャ人の数学的要素として、双曲線を使った日時計を紹介しました。また、ユークリッドの『原論』と、アポロニウスの『円錐曲線論』の両扉絵に共通する幾何図形に着目し、幾何学が当時の必須教養を象徴するものであったことを示しました(写真①)。

第2部の「ルネッサンスから近代、普遍数学への道」では、哲学者として著名なデカルトが数学実験を行ったこと



写真① アポロニウス『円錐曲線論』扉絵

を記した『幾何学』や、ディドロの『百科全書』に見る、数学の機器の解説などを中心に展示を行いました。第3部では「調和と美への叡智としての数学」と題して、数学と音楽・芸術との調和を示した資料を展示しました。特に、ニセロンの『奇妙な透視図法』に記述されている「だまし絵」の作図法をもとに作成した円錐やパネルは、来館者が実際に体験できる展示として関心を集めました。さらに、第4部は「現代数学への系譜」として、ヨーロッパ数学の拡大について紹介し、第5部では「和算とその発展」として日本における数学の発展に関する資料を展示しました。

特に今回は、資料の展示にとどまらず、パンタグラフなどの道具類の展示や、パソコン上で来館者が直接操作できる作図器を展示しました。また、だまし絵を応用した「円錐がまジャンパー工作キット」(写真②)を作成し、会場で配布したところ好評を得ることができました。広報の面では例年のポスター掲示に加え、附属図書館正面入口付近に、特別展の垂れ幕を下げるなどの新しい試みを行い集客に一役を担いました。今後も、貴重書を広く社会に公開する責任において、資料の公開を進めていきたいと思いをします。



写真② 円錐がまジャンパー工作キット

(特別展 WG 主査 大久保 明美)

平成27年度筑波大学附属図書館特別展「数学の叡智—その探求と発展—」については、以下のサイトをご覧ください。

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2015math/index.html>

資料紹介

Web版群書類従(正・続・続々)

附属図書館では、平成27年度人文社会系コレクションとしてWeb版群書類従(正・続・続々)を購入しました。2015年9月からジャパンナレッジの中のメニューに組み入れられて、すでに教職員や学生・院生の方々の利用が始まっています。

■群書類従とは

群書類従とは、江戸時代後期に刊行された、日本の古典の一大叢書の総称です。現在は「群書類従」全30冊、「続群書類従」全86冊、「続々群書類従」全17冊で構成されます。

最初の「群書類従」の編さんは1779年(安永7)に国学者の塙保己一(1746-1821)が発起し、1786年(天明6)に刊行開始、全冊刊行は1819年(文政2)でした。塙保己一は武蔵国



刊本「続群書類従」写真

児玉郡(現埼玉県)生まれ。7歳で失明し、江戸へ出て著名な国学者の賀茂真淵から和歌や国学を学びました。このとき保己一は、日本の貴重な古典が散逸・滅失の危機にあること、それらの写本が入手困難であることを知り、将来への保存と活用のため「群書類従」の刊行事業を発案します。そして江戸幕府の支援を得て収録作品1276編を和本666冊に収め、刊行を実現させたのです。

その後保己一は1795年(寛政7)頃に「続群書類従」編さんに着手、その没後は子の忠宝(ただとみ)が継承しますが幕末の騒乱で事業は難航、忠宝も長州の志士に暗殺されます。しかし孫の忠韶(ただつぐ)が事業を継承、明治維新を経て1883年(明治16)に写本の一部が宮内庁へ献上されました。さらに事業は続き、「続群書類従」が完成したのは1976年(昭和51)年です。また保己一の意志を継ぐ人びとが1903年(明治36)頃から「続々群書類従」の編さんに着手、1909年(明治42)に完成させました。

「群書類従」刊行時の版本は1957年(昭和32)に重要文化財指定されました。1925年(大正14)、当時皇太子だった昭和天皇はイギリスの日本研究推進のため「群書類従」和本666冊をケンブリッジ大学へ寄贈しました。また1928年(昭和3)、渋沢栄一らはハワイ大学図書館から日本語書籍寄贈の要請を受けて「群書類従」「続群書類従」刊本などを送りました。200年前に編さんされた、日本古典文化の象徴というべき群書類従は、現在も文学や歴史学をはじめ日本文化研究上で最初に繙くべき文献であり続けています。

■Web版群書類従の画期性と使い方

このように価値の高い群書類従ですが、従来から利用上の問題がありました。あまりに膨大な分量のため、叢書全体に及び総索引を作

ることができなかったのです。Web版群書類従はそれを解決し、叢書の中の語彙を横断検索することが可能になりました。

試みに、「地震」という語の検索を例に、実際に使ってみましょう。まず、附属図書館ホームページのトップページにある「データベース」をクリックし、「筑波大学附属図書館 電子リソースリスト」を開きます。そしてリスト中の「事典・辞書」に見える「ジャパンナレッジ」をクリックし、「JapanKnowledge Lib」のページへ移ります。次に左上の「基本検索」か「詳細(個別)検索」をクリックします。ここでは「基本検索」を使います。表示された画面左側の「検索コンテンツ」のリストから「群書類従(正・続・続々)」をクリックし、叢書全体の横断検索を準備します。そして「基本検索」の字の下にある「見出し/全文」を「全文」指定にして、右側に検索語を「地震」と記入し「検索」ボタンを押します。すると「地震」の語を掲載する文献521件が20件ごとに表示されました。各文献名の下には検索語の前後の文章が表示されています。

この中から、試みに「群書類従」所載の「房総治乱記」を選びます。すると中央に刊本の該当部分の版面画像が、右側にその部分のフルテキストが表示されます。フルテキストはコピー＆ペーストが可能です。ちなみにここには1601年(慶長6)12月に房総半島沖で発生し



検索結果画面写真

た大地震の記録が見えます。東日本大震災に先行して東北を襲った慶長大地震の発生は10年後の1611年(慶長16)です。いま私たちは、従来注目されていなかった慶長大地震の前震と想像される、関東の大地震の記録を確認したことになります。

こうしてWeb版群書類従を使いこなすと、従来の刊本は役目を終えるのでしょうか。答は否です。Web版は特定の語を検索・抽出する画期的なツールですが、その意味を作品全体の中に位置づけ詳しく考察するには、全文の通読や他の文献との比較検討が不可欠です。その際のツールは、今も紙の書籍が最も有効であり続けています。

刊本とWeb版を揃えて、群書類従の調査研究は飛躍的に進むでしょう。ぜひ多くの方々に利用していただき、画期的な研究成果が挙がることを期待しています。

(図書館情報メディア系教授 白井 哲哉)

1.出張報告・研修報告

OR2015 (10th International Conference on Open Repositories) 参加

Open Repositories (OR) は、世界各国から大学図書館や研究機関のリポジトリ担当者や技術者、研究者、学生、サービスプロバイダー、出版関係者等が集まり、情報の共有や議論を行う国際会議です。ORは2006年から毎年開催されており、今回(Open Repositories 2015: OR2015)で10回目を数えます。2015年は6月8日から6月11日の期間に米国インディアナポリスで開催されました。米国を中心に450名程度の参加者がいましたが、日本からの参加は筆者を含め3名のみでした。本報告ではカンファレンスの様子や筆者が行ったポスター発表について報告します。

1.カンファレンスの模様

Mozilla Science LabのKaitlin Thaney氏の基調講演「Leveraging The Web For Research」では、技術系の参加者が多かったためか、方法を考えるよりも有用でリポジトリを考え、非技術的な挑戦を忘れるな、という言葉に賞賛が集まりました。筆者はリポジトリコンテンツを再利用し新しいサーチエンジンを構築するなど、それぞれの大学図書館や研究機関で行われている個性的な取り組みや、ORCIDと連携したDSpace、Eprints、Hydra、DRYADの機能の紹介等のセッションに参加しました。事例発表ではDSpaceを使った機関リポジトリが多い印象でした。

最も印象に残ったのはGoogle ScholarのAnurag Acharya氏の講演「Indexing repositories: pitfalls and best practices」で、Google Scholarで行っているリポジトリのインデキシングについて知ることができました。具体的には、「発行年月日がはっきりしない文献があれば、間違った情報を登録するよりも何もない方が良い」「大きいファイルがあっても、細かく章毎に分割せず、そのまま登録する」等です。また、「What We Index Is What You See」という言葉が印象に残りました。

2.ポスター発表

筆者が協力員として参加している機関リポジトリ推進委員会では、「機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築」に関する事項を企画・立案し、学術情報の円滑な流通及び発信力の強化にかかる活動を推進することを目的に活動しています。2日目(6月9日)18:00-20:00のポスター・レセプションにおいては、機関リポジトリ推進委員会のコンテンツWGと国際連携WGが共同で取り組んでいる「IRcuresILL: Institutional Repository cures Interlibrary Loan / Document Delivery」プロジェクトについて、ポスター発表を行いました。IRcuresILLとは、NACSIS-CAT/ILLのデータを元に、ILLで飛び交っている人気論文をIRに登録し、オープンアクセス化しようとする取り組みです。それによって、顕在的・潜在的な需要に応え、さらに、各機関においてのILL作業の負担を

減らすことを目的としています。ポスターは概ね好評で、20人程度から質問やコメントを頂きました。好意的なコメントが多く、プロジェクトをこれからも継続していくよう激励を受けることもありました。

(相互利用担当 新岡 美咲)

国立情報学研究所実務研修報告

2015年6月1日～8月31日の3か月間、「国立情報学研究所(NII)実務研修」を受講させていただきました。研修先は、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)事務局です。

JUSTICEは、日本の大学における教育・研究活動に必須である電子ジャーナルをはじめとした学術情報を、安定的・継続的に確保して提供するための活動を推進している組織です。全国の国公私立大学の図書館が会員館となっており、筑波大学附属図書館の職員も運営委員、作業部会委員として活動に協力しています。事務局には3名の専任職員が所属しています。



研修中は、出版社交渉への参加・記録作成、会議や行事の運営補助など、事務局の業務を経験させていただきながら、研修テーマとして設定した「電子リソースの利用統計の収集・管理および活用方法に関する調査」に取り組みました。

JUSTICEの主要業務の一つが出版社との交渉です。コンソーシアムとして、契約条件の交渉を一元的に行い、通常と比べて有利な条件を獲得するよう努力しています。研修中は大小様々な出版社との交渉に同席させていただき、製品についての知識を深めることができました。また、国内外の電子リソースをめぐる状況を様々な角度から概観する機会となり、非常に有意義な経験ができました。

研修テーマの利用統計に関する調査では、他大学での電子リソースの統計の管理・活用方法について、アンケートや聞き取りによる調査を行いました。統計の活用は、各大学の資料契約の枠組みや考え方に密接に関連していることから、統計の収集や管理の方法に関する話題のみならず、電子資料の選定方法や費用負担のあり方などについてそれぞれの大学の状況をお聞きすることができ、大変勉強になりました。

慣れない環境での研修は緊張の連続でしたが、JUSTICE事務局およびNIIの職員の方々に親切に指導していただき、なんとか無事に研修を終えることができました。送り出してくださった筑波大学の皆様、調査に協力してくださった他大学の担当者の方を含め、関係の方々に深くお礼申し上げます。

(電子リソース担当主任 浅野 ゆう子)

5 職員の活動

2.論文発表・研修における講師等

当館職員の論文執筆や、学外の研修・シンポジウム等における講師・事例発表等の活動記録です。

1.執筆活動

谷奈穂, 嶋田晋, 北米の大学図書館におけるニーズ調査とシーズ提供の方策の調査. 大学図書館研究. 2016, No.103, p.62-73.

論文要旨:

本稿は2014年10月に米国イェール大学図書館及びマサチューセッツ大学アマースト校図書館を訪問し行った調査の報告です。イェール大学では利用者のニーズ把握に関して、対象の行動の調査によりサービスの変革や創出を行う手法についてインタビューを行いました。マサチューセッツ大学では図書館の持つ特性(シーズ)がサービスとして活かされている例について調査を行いました。体系的な手法によるニーズ調査、また学内組織と連携してのシーズ提供について貴重な知見を得ることができました。

大学図書館研究

<http://www.jcul.jp/ojs/index.php/daitoken/article/view/1417>

※2016年7月4日までエンバゴ期間中

江川和子, 特集, 公益法人移行後の活動部会の現在: 大学図書館部会の現在. 図書館雑誌. 2015, vol.109, no.8, p.489-490.

つばりポジトリ

<http://hdl.handle.net/2241/00141207>

大久保明美, 篠塚富士男, 特集, 展示の力を考える: 筑波大学附属図書館における展示活動. 図書館雑誌. 2015, vol.109, no.10, p.642-643.

つばりポジトリ

<http://hdl.handle.net/2241/00141209>

原澤仁美, 進化する図書館ボランティア: 筑波大学附属図書館ボランティアについて. SALA会報. 2015, vol.23, p4-5.

埼玉県大学・短期大学図書館協議会

http://sala.gr.jp/?page_id=22

大曾根美奈, 筑波大学附属図書館における展示ワーキンググループの活動. 大学の図書館. 2015, vol.34, no.11, p.217-218.

中村洋子, 田村香代子, 特集, スポーツと図書館: スポーツとアートの図書館(筑波大学体育・芸術図書館). 専門図書館. 2016, No.276, p.10-15.

2.ポスター発表

"Institutional Repository cures Interlibrary Loan / Document Delivery" 10th International Conference on Open Repositories (OR2015), 2015.6.8-6.10, Indianapolis, Indiana, USA.

ポスター要旨:

図書館間相互貸借(ILL)やドキュメントデリバリー(DD)では、同じ文献が図書館間で何度も何度も飛び交っています。最も多いものは、年間に100回以上もコピー・配達されています。ILL/DDの利用状況を反映させ、人気の文献を特定し、それらをオープンアクセス化することにより、本当の需要に応えることができると考え、調査・実施しました。

「筑波大学附属図書館LAによる企画実施イベントLAセミナー紹介」学生協働ワークショップ in 東京2015, 2015.9.16, 早稲田大学.

3.講師・事例報告

開催日	氏名	催し名【テーマ・レジュメ・参考URL】
2015.6.18	真中 孝行	機関リポジトリ新任担当者研修及びJAIRO Cloud講習会(NII会場第1回)
2015.6.18	嶋田 晋	国立大学図書館協会総会 【テーマ】(海外派遣報告)北米の大学図書館におけるニーズ調査とシーズ提供の方策の調査 【レジュメ】 http://www.janul.jp/j/operations/overseas/result.html#H26-4
2015.10.16	村尾真由子	第101回 全国図書館大会 東京大会 第2分科会 【テーマ】学習支援の次なるStep ーラーニング・コモンズと情報リテラシーのおいしい関係ー 「筑波大学附属図書館における『高等教育のための情報リテラシー基準』活用事例報告」 【レジュメ】 http://hdl.handle.net/2241/00136317
2015.11.18	大曾根美奈	平成27年度茨城県図書館協会大学図書館部会研修会 【テーマ】筑波大学附属図書館における貴重資料の保存と公開
2015.12.3	渡邊 朋子	平成27年度静岡県大学図書館協議会講演会・実務研修会 【テーマ】大学図書館における学習・研究支援 ー研究支援の取り組み紹介ー 「すぐできる!図書館の研究不正防止キャンペーン」

3.職員研修会

2015年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計12回行いました。

日 時 ・ 場 所		参加人数
テーマ	講 師	
2015.5.27 集会室		対象30名
第1回コアスタッフ勉強会 「筑波大学附属図書館副館長着任にあたって」	江川和子(副館長)	
2015.7.9 集会室		53名
国立国会図書館における電子図書館 ―今と5年後、10年後― (主催:知的コミュニティ基盤研究センター)	川島隆徳(国立国会図書館)	
2015.9.4 新館2階会議室		20名
インターンシップ成果報告会	清水 裕梨(知識情報・図書館学類3年) 鈴木友里亜(知識情報・図書館学類3年) 高田 叶子(知識情報・図書館学類3年) 榎本 祐季(知識情報・図書館学類3年)	
2015.10.8 集会室		26名
研修／出張報告会 1. OR2015参加報告 2. 国立情報学研究所実務研修報告	1. 新岡美咲(情報サービス課(相互利用)) 2. 浅野ゆう子(情報管理課(電子リソース))	
2015.10.29 集会室		対象30名
第2回コアスタッフ勉強会 「企業との連携について」	佐藤初美(情報サービス課長)	
2015.11.25 集会室		23名
学習支援の現在と未来 1. 学生協働WS参加報告 2. 『高等教育のための情報リテラシー基準』 活用事例報告(第101回全国図書館大会の再演)	1. 岩本悠(情報管理課(電子図書館)) 2. 村尾真由子(情報サービス課(図書サービス))	
2015.11.26 集会室		30名
日常的な図書修理について	真中篤子(情報サービス課(図書サービス))	
2015.12.15 新館2階会議室		12名
Learning Spaces	Magnus Pfeffer(Stuttgart Media University)	
2015.12.21 集会室		対象30名
第3回コアスタッフ勉強会 「大学情報マネジメント室の業務及びIRIについて」	落合俊介(企画室)	
2016.1.27 集会室		14名
対面朗読の実際	1. 半田こづえ(障害学生支援室・人間系) 2. 柳澤由紀子(附属図書館ボランティア)	
2016.2.23 集会室		22名
筑波大学出版会について	飯塚桂子(企画室)	
2016.3.1 集会室		40名
Towards new modes of publishing and information-sharing among researchers at Pitt and internationally(逐次通訳つき) (主催:知的コミュニティ基盤研究センター)	Timothy S. Deliyannides (University of Pittsburgh Library)	

6 トピックス

1. サービス・活動

日 付	内 容
2015.4.1	(中央図書館) 休業期間における臨時開館・開館時間延長正式運用開始 (月～金 9:00～17:00→9:00～20:00 土日祝日 終日閉館→9:00～18:00)
2015.4.20～2016.1.23	(中央図書館) エントランスホールでの学生交流企画 プレゼンひろば (主催: つくば院生ネットワーク)
2015.4.22～2016.3.23	(中央図書館) 公開講座「ソクラテス・サンパ・カフェ」(主催: 人文社会科学研究所哲学・思想専攻)
2015.4.15～7.15	Oxford University Press 電子ブックの無料トライアルを実施
2015.5.27	(中央図書館) 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス専用端末での印刷を可能に
2015.6.1	筑波大学附属図書館ボランティア 20 周年記念式典を開催
2015.7.1～2016.2.17	(体芸・医学・図情図書館) 学期中平日の早朝開館試行 (月～金 9:00～22:00→8:30～22:00)
2015.7.1	(大塚図書館) 多目的学習室の予約制限時間延長試行 (1グループにつき1日1回 2時間以内 → 1日1回 3時間以内)
2015.7.4	(大塚図書館) 附属図書館講演会「博士論文インターネット公開の基礎知識」開催 (東京キャンパス文教校舎 320 講義室)
2015.7.6	第 2 回学生選書ツアーを開催
2015.8.20	国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスを開始
2015.10.1～2016.1.29	学生サポートデスクの予約制試行
2015.10.5～12.21	(中央図書館) 大学院共通科目「ザ・プレゼンテーション」を本館 2 階ラーニング・スクエアで開催
2015.11.9～12.17	雑誌・新聞購読見直しに関するアンケートを実施
2015.11.16	Web 版群書類従が利用可能に
2015.11.18	国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同ネットワーク構築事業」による電子化画像を公開
2015.11.19	「筑波大学オープンアクセス方針」を採択
2015.12.7	第 17 回図書館総合展 (2015.11.10～2015.11.12) で開催された第 1 回図書館キャラクターグランプリで、 附属図書館キャラクター「がまじゃんぱー」が「館の働き者」部門初代グランプリと審査委員会賞を W 受賞
2015.12.29～2016.1.3	(大塚図書館) 年末年始の時間外無人開館試行 (9:00～23:00)
2016.1.8～1.31	マナーアップキャンペーン「図書館の本はみんなのもの」を開催
2016.1.13	第 3 回学生選書ツアーを開催
2016.1.20～3.18	「筑波大学オープンアクセス方針」に関する説明会を開催
2016.1.26	Web of Science Citation Connection が利用可能に
2016.1.26	貴重書展示室の常設展示「日本の出版文化」をリニューアル
2016.2.1	マイライブラリに貸出履歴の参照機能を追加 (当年度と前年度の 2 年度分)
2016.2.18～2.29	(医学図書館) 春季休業期間の開館時間延長試行 (医学類の授業が休業期間にかかる期間にも実施されていることから、学期中と同じ時間で開館)
2016.2.18～3.25	筑波地区内の図書の取り寄せサービスを試行
2016.2.22	つくばリポトリで学内定期刊行物のページを公開
2016.3.4	研究開発室研究成果報告会を開催
2016.3.10	マイライブラリに他機関からの貸借資料取り寄せ状況確認機能を追加
2016.3.24	つくばリポトリが公開から 10 周年
2016.3.31	「本学紀要掲載論文」「博士学位論文」に、DOI (Digital Object Identifier) の付与を開始
2016.3	電子ブック (Springer eBook, Infobase Learning eBooks, Macmillan Readers 他)、 Wiley 社電子ジャーナルバックファイルを購入

2. 企画・展示

日 付	内 容
中央図書館 展示	
2015.3.11～4.30	Community Book Shelf (主催: 3Ecafe プロジェクトチーム)
2015.3.19～4.23	書 Book + Calligraphy Exhibition 2015 (国際書道クラブとの共催)
2015.3.24～4.24	東日本大震災から 4 年 ～現状とこれから～ (主催: 僕らの夏休みプロジェクト筑波支部、Tsukuba For 3.11)
2015.4.3～4.12	特別展「よみがえる湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展」(主催: 筑波大学)
2015.4.27～5.22	グローバル人材の育成に関する取組を中心に ～平成 26 年度 筑波大学附属学校の活動～
2015.5.18～5.25	ネパール大地震の現状と支援 (主催: CLOVER)
2015.5.25～6.5	附属図書館ボランティア 20 周年記念展示
2015.6.8～7.3	T-ACT 企画 社会貢献プロジェクト採択課題 UNICO ～星空から笑顔の輪を～ の今までとこれから (主催: UNICO)

全館で同時開催された「Stop! 不正行為」展示

日 付	内 容
2015.6.12～6.19	世界難民の日の告知（主催：CLOVER）
2015.5.25～7.28	Stop! 不正行為 あなたは大丈夫？ 捏造・改ざん・盗用
2015.7.29～8.23	第2回学生選書ツアー
2015.7.27～8.27	東日本入国管理センターについて（主催：CLOVER）
2015.9.18～10.4	「フランス週間」関連資料の展示
2015.10.6～11.2	世界食糧デー テーマ：「フードロス」（主催：Table For Two 筑波大学、Youth Ending Hunger 茨城）
2015.10.1～11.8	活動紹介と被災地の今の紹介（主催：僕らの夏休み Project）
2015.10.5～10.20	留学を目指している方へ
2015.11.7～11.8	近未来書籍アドベンチャー（図書館情報メディア研究科宇陀・松村研究室と共催）
2015.9.28～11.8	平成27年度附属図書館特別展「数学の叢智—その探求と発展—」
2015.11.11～11.18	「MENA Week」関連資料の展示
2016.1.8～1.31	マナーアップキャンペーン：図書館の本はみんなのもの
2015.3.11～4.30	Community Book Shelf（主催：Circolo3E）
2015.12.21～2016.1.29	「学問本オーナービジット」対象図書の展示
2016.2.1～2.28	第3回学生選書ツアー
2016.2.15～2.29	東日本大震災から5年が経つ被災地の姿（主催：僕らの夏休み Project、Tsukuba for 3.11）
体芸図書館 展示	
2015.4.1～4.30	「ようこそ、筑波大学へ」関連資料の展示
2015.4.1～4.30	アンチ・ドーピング啓発活動ミニ展示（渡部厚一准教授（体育系）、日本アンチ・ドーピング機構）
2015.5.1～5.31	「アスリートの肖像」関連資料の展示
2015.5.8～5.28	The world of infrared light 写真展（芸術専門学群学生）
2015.6.2～6.23	モノクロ+ 写真展（芸術専門学群学生）
2015.6.24～7.29	Stop! 不正行為 あなたは大丈夫？ 捏造・改ざん・盗用
2015.6.26～8.27	岡田信一郎の夢 - 東京府美術館と法隆寺 - （齊藤泰嘉芸術支援研究室（芸術系）） （助成：文化庁【大学を活用した文化芸術推進事業】）
2015.9.7～9.18	附属図書館ボランティア20周年記念展示
2015.9.18～10.4	「フランス週間」関連資料の展示
2015.9.28～10.14	「クロード・モネ」の展覧会ポスター紹介
2015.9.30～10.20	「一番のつばな本と一番重い本」関連資料の展示
2015.10.19～11.8	みずいろの光、と形 写真展（芸術専門学群学生）
2015.11.11～11.20	「MENA WEEK」関連資料の展示
2015.11.13～12.1	日常への旅 写真展（芸術専門学群学生）
2015.12.4～2016.1.28	《神奈川沖浪裏》の謎 - 波の伊八と葛飾北斎とゴッホ - （齊藤泰嘉芸術支援研究室（芸術系）） （助成：文化庁【大学を活用した文化芸術推進事業】）
2016.2.1～3.31	新春書コース展 はつはるのうた（芸術専門学群書コース学生）
医学図書館 展示	
2015.6.26～8.7	Stop! 不正行為 あなたは大丈夫？ 捏造・改ざん・盗用
2015.9.14～10.31	看護実習に役立つ本の展示
図情図書館 展示	
2015.3.18～4.17	春の特別展示 桜のなかりせば…（綿抜豊昭 知的コミュニティ基盤研究センター長）
2015.3.19～4.17	関連展示（図情図書館）
2015.4.27～9.4	和古書さまざま（綿抜豊昭 知的コミュニティ基盤研究センター長）
2015.6.18～7.29	Stop! 不正行為 あなたは大丈夫？ 捏造・改ざん・盗用
2015.7.30～9.7	この方も卒業生
2015.9.8～11.30	江戸のイメージネーション（綿抜豊昭 知的コミュニティ基盤研究センター長） 関連展示（図情図書館）
2015.9.14～9.16	東アジアの博物館学関連書籍の展示（水嶋英治 図書館情報メディア系教授）
2015.12.8～2016.2.29	日本の博物館学、図書館情報学、アーカイブズ学の学会誌 めでたい（綿抜豊昭 知的コミュニティ基盤研究センター長）
2015.12.10～2016.2.29	関連展示（図情図書館）
2016.3.1～	源氏絵の様々（綿抜豊昭 知的コミュニティ基盤研究センター長）
2016.3.4～	関連展示（図情図書館）
大塚図書館 展示	
2015.7.1～7.31	Stop! 不正行為 あなたは大丈夫？ 捏造・改ざん・盗用

3.見学・来訪者

日 付	内 容
2015.4.7	香港明華神学院一行 3名
2015.6.11	シンガポールの高校生（アジア国際支援財団より派遣） 24名
2015.7.10	韓国京畿大学生 30名
2015.7.21	タイ国教育省高等教育局一行 22名
2015.8.1／8.2／8.8	平成 27 年度受験生のための筑波大学説明会 4,886名
2015.8.3	中国中山大学教員、鶴見大学長塚先生一行 3名
2015.8.4	米国数学者一行 3名
2015.8.20	上海交通大学図書館長一行 5名
2015.9.18	JICA 留学予定者一行 11名
2015.9.29	ベトナムホーチミン薬科大学長一行 6名
2015.9.30	ブラジルの高校生（「オリンピック・パラリンピックムーブメントへの参画」セッション参加者） 3名
2015.11.11	マレーシア イスラム科学大学一行 6名
2015.11.16	マレーシア工科大学 UTM 研修生 1名
2015.11.30	Magnus Pfeffer 教授（シュトゥットガルト・メディア大学） 3名
2015.12.4	インドネシア高等教育関係者一行 39名
2015.12.11	中日青少年科学技術交流プログラム JISTEC 一行 10名
2016.1.20	台湾国立鍵大学一行 34名
2016.2.4	スロベニアリュブリャナ大学学長一行 11名
2016.2.10	西オーストラリア大学副学長 3名
2016.2.15	インドネシア Prasetiya Mulya 大学長一行 12名
2016.2.17	釜山大学インターンシップ学生一行 3名
2016.2.29	Timothy S. Deliyannides 氏（米国ピッツバーグ大学図書館） 2名
2016.3.9	JSTさくらサイエンスプラン一行 10名
2016.3.10	中国華東師範大学副学長一行 3名

※全95件(8,579名)から抜粋したものです

4.オリエンテーション・講習会

日 付	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション(学群生)	4回	2,400名
新入大学院生オリエンテーション(院生)	11回	237名
留学生オリエンテーション	9回	236名
新任教員オリエンテーション	2回	25名
職員オリエンテーション	1回	263名
図書館の本や雑誌の探し方講習会	9回	31名
論文の探し方講習会	40回	312名
自由テーマオリエンテーション	18回	101名
科目関連指導	58回	2,657名
(内訳)フレッシュマンセミナー(各学類等)	47回	2,178名
授業「総合日本語7演習」春学期の1コマ分を担当	1回	9名
授業「基礎化学実験」春学期の2コマ分を担当	2回	114名
授業「国語Ⅲ」春学期の2コマ分を担当	2回	151名
授業「知の探検法」秋学期の6コマ分を担当	6回	205名
その他	5回	120名

開催日 内容		講 師	参加者数
ライティング支援セミナー			
2015.5.28	大学生入門 文書リテラシー1: 小論文とレポートの違いは分りますか?	三波千穂美(図書館情報メディア系)	10名
2015.6.4	大学生入門 文書リテラシー2: 情報を構造化する		12名
2015.7.3	大学院生入門 自分を守る情報リテラシー	逸村裕(図書館情報メディア系)	2名
2015.11.12	大学生入門 大学で身につけたい言葉の力1: 疑うことからはじめよう ー批判的に読むー	島田康行(アドミッションセンター)	6名
2015.11.26	大学生入門 大学で身につけたい言葉の力2: 考えの述べ方 ー主張のく構造>ー		7名
2015.11.28	大学院生入門 自分を守る情報リテラシー (東京キャンパス)	逸村裕(図書館情報メディア系)	6名
2015.12.3	大学生基礎 事実?意見?(1): 図表を文章で表現する	野村港二(教育イニシアチブ機構)	4名
2015.12.10	大学生基礎 事実?意見?(2): 「事実」と「意見」を区別する		4名
LAセミナー			
2015.12.1	伝わる!研究のアウトプット術	大山貴稔、栗原拓也、長尾尚 (附属図書館ラーニング・アドバイザー)	26名
2015.12.3	申請書で伝える!あなたの研究セミナー(前編)	二歩裕(URA研究支援室)	30名
2015.12.17	申請書で伝える!あなたの研究セミナー(後編)	二歩裕(URA研究支援室)	21名
多読入門セミナー			
2015.12.18	英語多読の科学 ーラクラク学習法のススメー	森好紳(人文社会科学研究科)	44名
2016.1.22	TOEICスコアを上げるための多読	細田雅也(人文社会科学研究科)	60名
2016.2.1	多読 はじめの一歩 ー高校の現場からー	前田昌寛(教育研究科)	38名
その他の学習支援企画			
2015.12.9	「英語論文の書き方」と「EndNoteの使い方」セミナー (医学地区)	西村マリ (カクタス・コミュニケーションズ 株式会社／ユサコ株式会社)	63名
2015.12.11	「英語論文の書き方」と「EndNoteの使い方」セミナー		22名
2015.12.12	「英語論文の書き方」と「EndNoteの使い方」セミナー (東京キャンパス)		15名
2016.2.5	魅せる!プレゼン:あなたは伝える工夫を していますか? (医学地区)	田中佐代子(芸術系)、 三輪佳宏(医学医療系)、 小林麻己人(医学医療系)	32名

5.研修・シンポジウム

日付	内容
2015.7.6~7.17	平成27年度大学図書館職員長期研修 (受講生36名)
2015.7.31/8.3/8.5/8.21	職場体験 (つくば市内中学生 4校11名)
2015.8.24~9.4	インターンシップ (筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類 4名)
2016.2.17	インターンシップ (韓国 釜山大学校 文献情報学科 3名)

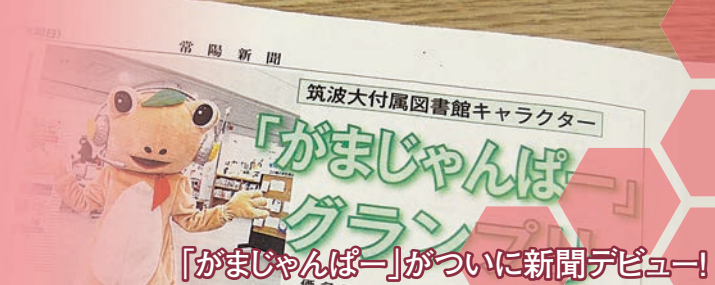
6.会議

日付	内容
2015.6.2/2016.3.22	附属図書館研究開発室運営会議
2015.5.25/7.22/10.6/2016.2.24	附属図書館運営委員会
2015.5.20/9.25/2016.2.17	附属図書館収書専門委員会
2015.5.13/12.17	附属図書館ボランティア専門委員会
2015.11.9	国立大学図書館協会秋季理事会 (於:筑波大学 情報メディアユニオン)

メディアにみる附属図書館

1. 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日 付	掲載元	メディア	掲載内容
2015.3.28	東京新聞	新聞	よみがえる湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展 「聖堂ゆかりの狩野派絵画」
2015.3.28	常陽リビング	新聞	よみがえる湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展
2015.4.1	朝日新聞	新聞	よみがえる湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展
2015.4.3	朝日新聞	新聞	湯島の孔子像鮮やかに復元
2015.4.3	東京新聞	新聞	色鮮やか 湯島聖堂の孔子像
2015.4.3	茨城新聞	新聞	筑波大 湯島聖堂孔子像を復元
2015.4.3	日刊 常陽新聞	新聞	よみがえる湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展
2015.4.4	NHKニュース	テレビ	湯島聖堂の孔子像 色彩も復元し公開
2015.4.6	毎日新聞	新聞	孔子像を彩色復元
2015.4.6	筑波大学新聞	新聞	サービス充実 賢い図書館の利用法
2015.4.8	日刊 常陽新聞	新聞	旧湯島聖堂の孔子像復元 当時の色合いよみがえる
2015.4.23	カレントアウェアネス-E	Web	筑波大学雙峰祭「近未来図書館シリーズ」5年間の軌跡
2015.4.26	茨城新聞	新聞	湯島聖堂の孔子像 色彩も復元し公開
2015.6.1	筑波大学HP	Web	筑波大学附属図書館ボランティア20周年記念式典を開催
2015.6.8	文教ニュース	雑誌	筑波大学附属図書館ボランティア20周年記念式典
2015.6.30	首都圏大学図書館ガイド： オトナの知的空間案内	図書	筑波大学附属図書館 古書から電子書籍まで多彩なライブラリー
2015.6.18	日刊 常陽新聞	新聞	筑波大図書館ボランティア20年 公募50人、案内や環境整備
2015.6.19	文教速報	雑誌	筑波大図書館、ボランティア20周年記念式典を開催
2015.7	TSUKUBA COMMUNICATIONS	雑誌	よみがえる湯島聖堂本尊孔子像 彩色復元特別展を開催
2015.7.6	文教ニュース	雑誌	Stop!不正行為 あなたは大丈夫?—捏造・改ざん・盗用— 筑波大図書館が研究不正防止キャンペーン
2015.7.8	文教速報	雑誌	「あなたは大丈夫?—捏造・改ざん・盗用—」 筑波大図書館で研究不正防止キャンペーン
2015.7.17	筑波大学HP	Web	平成27年度大学図書館職員長期研修開催
2015.7.27	文教ニュース	雑誌	筑波大 平成27年度大学図書館職員長期研修
2015.7.31	文教速報	雑誌	大学図書館職員長期研修を開催(筑波大)
2015.10.1	Campus	雑誌	図書館の奥深き活用法 ちょっとした機能でより便利に
2015.10.3	常陽リビング	新聞	【筑波大学附属図書館特別展】 数学の叡智—その探求と発展—
2015.10.31	日刊 常陽新聞	新聞	筑波大図書館で特別展 数学の歴史や面白さ紹介
2015.11.20	筑波大学HP	Web	「筑波大学オープンアクセス方針」を採択
2015.11.20	カレントアウェアネス-R	Web	筑波大学、オープンアクセス方針を採択
2015.11.30	文教ニュース	雑誌	筑波大図書館特別展「数学の叡智—その探求と発展—」
2015.12.7	カレントアウェアネス-R	Web	第17回図書館総合展で開催された「図書館キャラクターグランプリ」の受賞者が発表に
2015.12.21	文教速報	雑誌	筑波大図書館で「数学の叡智」展
2016.1.4	筑波大学HP	Web	筑波大学附属図書館 キャラクター「がまじゃんぱー」が、「図書館キャラクター・ グランプリ」で初代グランプリと審査委員会賞をW受賞
2016.1.12	カレントアウェアネス-R	Web	「17時過ぎのイレイサー」:筑波大学附属図書館のマナーアップキャンペーン で学生アルバイトのバンドによるオリジナルキャンペーンソング
2016.1.4	文教ニュース	雑誌	◆筑波大学附属図書館◆ 「がまじゃんぱー」が「図書館キャラグランプリ」で初代グランプリ受賞
2016.1.22	文教速報	雑誌	筑波大図書館キャラが初代グランプリに
2016.1.21	日刊 常陽新聞	新聞	筑波大学附属図書館キャラクター「がまじゃんぱー」グランプリ知名度アップに貢献
2016.2.4	カレントアウェアネス-E	Web	「図書館キャラクターグランプリ」受賞者にインタビュー
2016.3.4	文教速報	雑誌	=筑波大図書館= 学生LAがURAと合同セミナー
2016.3.7	文教ニュース	雑誌	=筑波大学= URAと合同セミナー「申請書で伝える!」
2016.3.28	カレントアウェアネス-R	Web	筑波大学の機関リポジトリ「つくばリポジトリ」、公開から10周年
2016.4	TSUKUBA COMMUNICATIONS	雑誌	「がまじゃんぱー」が図書館キャラクターGP 日本一!



2.図書館の刊行物

進化する図書館ボランティア ～筑波大学附属図書館ボランティアの20年～

筑波大学附属図書館年報2014年度

平成27年度筑波大学附属図書館特別展 数学の叡智 ―その探求と発展― (図録)

Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)

No.76 2015. 4.21 中央図書館学生サポートデスク ラーニング・アドバイザー2015

No.77 2015. 9.29 学生サポートデスクの予約制 スタート!

No.78 2015.12. 2 大学生入門 - 文書リテラシー 体験記

No.79 2016. 1.29 2015年度第1回LAセミナー伝わる研究のアウトプット術ダイジェスト

No.80 2016. 1.29 図書館資料の利用 それダメ!のあと、どうする?どうなる?

No.81 2016. 3. 8 申請書で伝える!あなたの研究セミナー ダイジェスト

No.82 2016. 3.14 電子ブック使ってますか?

No.83 2016. 3.24 祝10周年 つくばリポジトリ

No.84 2016. 4. 1 ラーニング・スクエアに行こう!

筑波大学附属図書館概要 2015(日本語版・英語版)

筑波大学附属図書館利用案内2015(和英併記)

3.出版・放映・Web上に掲載された所蔵・公開資料

日付	内容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2015.4.17	放映	和装古書	繪本拾遺信長記 後篇巻之7	ル152-6	10076721029	番組「僕たちは昭和を生きた」
2015.6.11	出版	和装古書	宇都宮より三之山伐透し山道守護繪圖	ヨ150-173	10076879846	「一個人」183号
2015.6.11	展示	和装古書	大日本物産圖會	へ950-宮210	10088015218	展覧会「垂炭香古学 2015 山のひかり川のほし」展における展示パネル
2015.7.16	放映	和装古書	鯨絵 [19] (町人に退治された鯨)	726.1-N47	10084019139	放送大学授業番組「地域と都市の防災」第6回
2015.7.23	出版	和装古書	兒學教導單語之圖;五十音圖	へ950-宮203	10088015209	学習まんが「日本の歴史」
2015.9.17	その他	和装古書	浪華往古圖	ネ040-597	10076904336	イベント「古地図であるく 大阪・熊野街道」チラシ掲載
2015.9.17	放映	和装古書	増補再板京大繪圖(乾・坤)	ネ040-606	10076904341 10076904342	番組「尾上松成の古地図で謎解き! にっぽん探究」
2015.11.5	放映	貴重書	Fasciculus e lapponicis floribus, suo adhuc madentibus sanguine...	198.221-B39	10079324264	JAL 機内ビデオ「旅ウォーク」
2015.11.26	出版	和装古書	信州海津ノ城ノ圖	ヨ150-38	10076879700	図解真田三代
2016.1.6	出版	和装古書	論語, 存1巻	口860-28	10076701136	新・国語の学習
2016.1.28	放映	和装古書	球陽 巻之21	ヨ360-29	10076130280	ひるおび!
2016.2.17	出版	貴重書	[野外奏楽、猿曳図](右隻・左隻とも)	721.4-Ka58	10003015099 10003015100	筑波大学芸術学研究誌「藝叢」
2016.2.17	出版	貴重書	[李白観瀑、剡溪訪戴図](右隻・左隻とも)	721.4-Ka58	10003015101 10003015102	筑波大学芸術学研究誌「藝叢」
2016.3.4	放映	和装古書	文部省発行錦繪: 衣喰住之内家職幼繪解之圖等 第5[植木屋・左官(上塗り), 第14[左官(下塗り)]	へ950-宮196	10088015236	3/11 放送 NHK BS プレミアム 「美の壺 神宿る左官」

※全73件から抜粋したものです。

8 附属図書館 ボランティアの活動

1.2015 年度ボランティア構成

●男性：9 ●女性：40 計 49 名

〈年齢内訳〉

●30代：3 ●40代：2 ●50代：10

●60代：22 ●70代：11 ●80代：1

●新規活動者 4 名 ●更新活動者 45 名

2.活動統計

1 総合案内

●ボランティアカウンター利用者数 1,083 人

(学内者：849 人 学外者：234 人)

●図書館見学案内 112 件 4,785 人

●対面朗読 65 時間

2 利用環境整備

●シェルフリーディング数 4,056 連

(中央図書館：3,950 連 体芸図書館：106 連)

●不明図書の発見 2 冊

●ラベル補修 267 冊

(中央図書館：207 冊 体芸図書館：60 冊)

●図書修理冊数 1,941 冊

(中央図書館：1,339 冊 体芸図書館：602 冊)

3 体芸図書館ポスター整理 368 枚

3.年間行事

1 フォローアップ研修

●「対面朗読の実践」 1 月 講師 半田こづえ

DAC センターアクセシビリティ部門助教、柳澤由紀子氏
(附属図書館ボランティア)

ボランティアの対面朗読サービスを受けている半田先生からの講話と、サービスを提供するボランティアからの実際の活動内容を学びました。

●ミニレクチャー「日常的な図書修理」 11 月

講師 真中図書サービス担当係長

ボランティアが修理する図書は年間 2,000 冊に及びます。図書館の方針や細かい留意事項などを具体的に研修する良い機会となりました。

●学外施設見学(高エネルギー加速器研究機構) 7 月

知っていそうで意外と知らない KEK のダイナミックな研究施設を見学しました。高エネルギー物理学分野の洋書数では国内屈指の図書室、同分野のアーカイブにいち早く取り組み始めた史料室にもお邪魔しました。

●学内施設見学(理療科教員養成施設・大塚図書館) 12 月

2 ボランティア懇談会 10 月

3 ボランティア講演会 10 月

「エミールの初版をめぐる謎」

講師 山内芳文名誉教授(東日本国際大学特任教授) 元図書館

長でもある山内先生から、ルソー著作の貴重書「エミール」についてお話を伺いました。



4.各種活動

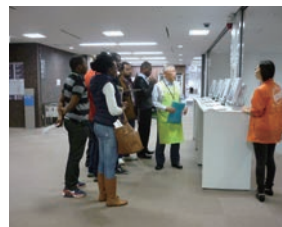
1 見学案内

今年も多数の見学者が来館され、ボランティアが大活躍でした。

新入生、留学生、高校生など、年間で 100 件 4,000 人を上回る数となっています。

海外からの見学者は、アメリカ、中国、

韓国、タイ、ベトナム、マレーシア、ドイツ、インドネシア、台湾、スロベニア、オーストラリア他、世界各国から、学長表敬の要人も含まれており、英語以外の外国語でも会話するなど、親しみのある案内に好印象を持たれています。



2 対面朗読

9 月からレギュラー予約が入り、毎週 3 回の対面朗読活動が再開しました。利用者が増えるよう DAC センターアクセシビリティ部門等へのPRを続けています。

3 日本文化紹介

●おりがみ講習会

留学生に日本文化を紹介する活動として今年も、7 月、12 月、2 月におりがみ講習会を開催しました。12 月からは場所を中央図書館 2 階のラーニングスクエアに移し

たことで、通りがかりの利用者にも参加しやすいと好評でした。毎回参加する学外者やリピーターの留学生など、定着したボランティア活動となっています。



おりがみ講習会

4 利用環境整備

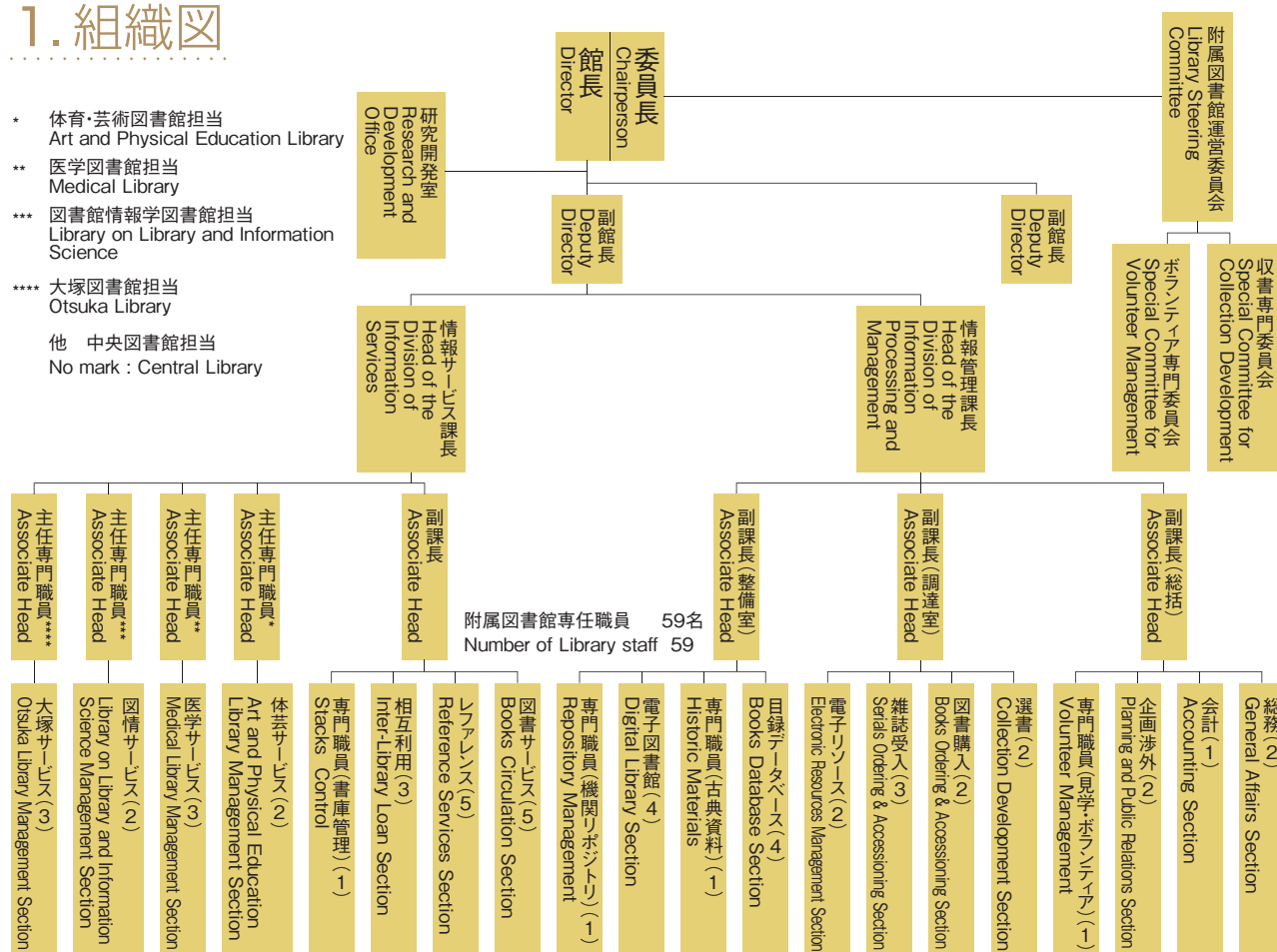
書架の整備や図書修理等、図書館内で見えないところでも作業するボランティアです。修理した図書は 2,000 冊。館内で図書の並び順を確認するボランティアは鮮やかな黄緑色のエプロンで活動しています。見かけたら気軽に声をかけてみてください。

(見学・ボランティア担当専門職員 原澤 仁美)

組織図・歴代館長

本の修理もボランティアの腕の見せ所

1. 組織図



2. 歴代図書館長

	名 前	期 間	備 考
高等師範学校	三宅 米吉	明治32年6月30日 ~ 明治36年9月6日	図書係事務監督
東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年9月7日 ~ 明治44年4月29日	主幹
	松井 簡治	明治44年4月30日 ~ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	昭和4年4月1日 ~ 昭和7年3月31日	
	諸橋 徹次	昭和7年3月4日 ~ 昭和20年10月3日	
	能勢 朝次	昭和20年10月4日 ~ 昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢 朝次	昭和24年6月1日 ~ 昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日 ~ 昭和29年7月15日	
	中西 清	昭和29年7月16日 ~ 昭和31年3月31日	
	熊沢 龍	昭和31年4月1日 ~ 昭和33年3月31日	
	熊沢 龍	昭和33年4月1日 ~ 昭和33年4月30日	事務取扱
	熊沢 龍	昭和33年5月1日 ~ 昭和35年4月30日	
	肥後 和男	昭和35年5月1日 ~ 昭和38年3月31日	
	山崎 定	昭和38年4月1日 ~ 昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日 ~ 昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日 ~ 昭和44年3月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日 ~ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日 ~ 昭和46年4月27日	
	橋本 重治	昭和46年4月28日 ~ 昭和47年3月31日	
	武藤 聡雄	昭和47年4月1日 ~ 昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日 ~ 昭和53年3月31日	

	名 前	期 間	備 考
筑波大学	三輪 知雄	昭和48年10月1日 ~ 昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日 ~ 昭和50年4月1日	
	大塚 茂	昭和50年4月2日 ~ 昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日 ~ 昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍興	昭和54年4月2日 ~ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日 ~ 昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日 ~ 昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司 利男	昭和56年5月1日 ~ 昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日 ~ 昭和60年4月3日	事務取扱
	升田 公三	昭和60年4月3日 ~ 昭和62年6月8日	
	柳沼 重剛	昭和62年6月9日 ~ 平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日 ~ 平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日 ~ 平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日 ~ 平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日 ~ 平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日 ~ 平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日 ~ 平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日 ~ 平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日 ~ 平成24年3月31日	
	中山 伸一	平成24年4月1日 ~ 平成28年3月31日	2期

1. 利用統計

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年間開館日数 (日)	平日	238	238	238	243	242	—
	土・日・祝日	115	82	115	122	122	—
	合計	353	320	353	365	364	—
入館者数(人)	平日	498,709	95,568	128,709	57,013	50,942	830,941
	(学外者 内数)	28,757	1,865	4,044	3,462	22,250	60,378
	土・日・祝日	100,424	12,430	29,703	9,055	38,061	189,673
	(学外者 内数)	11,341	538	2,921	1,788	14,110	30,698
	合計	599,133	107,998	158,412	66,068	89,003	1,020,614
平均入館者数(人)	(学外者 内数)	40,098	2,403	6,965	5,250	36,360	91,076
	平日	2,095	402	541	235	211	—
	(学外者 内数)	121	8	17	14	92	—
	土・日・祝日	873	152	258	74	312	—
	(学外者 内数)	99	7	25	15	116	—
貸出冊数(冊)	合計	1,697	337	449	181	245	—
	(学外者 内数)	114	8	20	14	100	—
	学群生	95,876	15,895	14,559	10,586	424	137,340
貸出利用者数(人)	院生	91,157	14,211	5,482	7,692	8,520	127,062
	教員	26,088	3,515	3,503	2,374	2,594	38,074
	学外者	4,968	564	497	810	2,048	8,887
	その他	171	69	1	0	113	354
	合計	218,260	34,254	24,042	21,462	13,699	311,717
	学群生	43,044	6,683	7,343	5,136	245	62,451
文献複写(コピー) (件)	院生	31,511	5,067	2,168	2,991	3,941	45,678
	教員	6,373	677	1,011	741	569	9,371
	学外者	2,298	254	249	402	967	4,170
	その他	36	2	1	0	3	42
	合計	83,262	12,683	10,772	9,270	5,725	121,712
	学外依頼	3,861	922	2,537	246	1,898	9,464
相互貸借(図書) (件)	学外提供	1,638	172	467	57	130	2,464
	合計	5,499	1,094	3,004	303	2,028	11,928
	学外借受	1,337	84	34	79	181	1,715
レファレンス件数(件)	学外貸出	2,290	264	68	122	88	2,832
	合計	3,627	348	102	201	269	4,547
	学生	11,524	2,198	1,794	805	4,470	20,791
資料に関するもの	教職員	2,925	293	2,713	230	525	6,686
	その他	1,680	91	204	131	271	2,377
	合計	16,129	2,582	4,711	1,166	5,266	29,854
利用案内・指導 事実に関するもの	資料に関するもの	9,597	1,640	3,918	517	4,336	20,008
	利用案内・指導	6,428	937	793	646	930	9,734
	事実に関するもの	104	5	0	3	0	112
合計		16,129	2,582	4,711	1,166	5,266	29,854

Webコンテンツアクセス数

Webサイトアクセス件数	件
学内	463,034
学外	806,595
合計	1,269,629

つくりポジトリアクセス件数	件
メタデータアクセス数	1,427,149
本文ダウンロード数	1,907,381

主要な電子ジャーナルフルテキストアクセス件数	件
Cambridge Journals Online	4,726
JSTOR	38,765
Nature	162,689
Oxford Journals	45,146
ProQuest Central	54,406
Science	26,479
ScienceDirect	623,311
SpringerLink	108,844
Wiley Online Library	158,948

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)	件
Business Source Complete	8,217
CiNii	536,120
Journal Citation Reports	13,482
Lexis.com	2,499
ProQuest Central	17,174
SciFinder	25,344
Web of Science	141,882
医中誌Web	85,907

主要な電子ブックアクセス件数	件
Cambridge University Press	816
ebrary	4,788
Maruzen eBook Library*	695
NetLibrary*	1,010
Springer	152,336
Wiley-Blackwell	1,281

* タイトルアクセス数(その他はセッションアクセス数)



学園祭にあわせてご案内チラシを配布

2.基盤統計

施設環境

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
建物面積(m ²)	19,330	3,518	2,793	2,848	1,552	30,041
座席数(席)	1,115	356	338	252	131	2,192
利用者用PC台数(台)	163	70	75	38	25	371

(※2015年度末現在)

図 書

(冊)

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
図書の受入(和洋区分)						
和書	11,045	2,295	1,216	2,201	2,909	19,666
洋書	3,666	578	171	354	4,119	8,888
合計	14,711	2,873	1,387	2,555	7,028	28,554
(受入区分)						
購入	6,752	1,740	1,162	872	600	11,126
寄贈	6,480	840	115	1,413	6,250	15,098
製本	1,437	289	109	250	174	2,259
その他	42	4	1	20	4	71
合計	14,711	2,873	1,387	2,555	7,028	28,554
蔵書数(和洋区分)						
和書	1,094,610	191,744	89,745	178,467	50,775	1,605,341
洋書	791,099	66,730	80,353	73,512	26,311	1,038,005
合計	1,885,709	258,474	170,098	251,979	77,086	2,643,346

雑誌(冊子)受入タイトル数

内 訳	年度受入タイトル数		
	購入	寄贈	計
和雑誌	954	6,638	7,592
洋雑誌	849	1,046	1,895
合計	1,803	7,684	9,487

つくばリポジトリ 累積登録件数 (※2015年度末現在)

内 訳	件 数
学術雑誌掲載論文	6,931
学位論文全文	2,916
学位論文内容・審査の要旨	8,278
修士論文	85
紀要論文	15,801
研究報告書	2,616
会議発表資料	218
講義資料	52
研究業績目録	23
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	63
その他(図書)	174
合計	37,252

電子ジャーナル契約タイトル数 (※有料契約のみ)

内 訳	タイトル数
Cambridge Journals Online	339
JSTOR	978
Nature	34
Oxford Journals	261
ProQuest Central	16,000
Science	1
ScienceDirect	2,278
SpringerLink	1,607
Wiley Online Library	1,442
その他	6,030
合計	28,970

提供データベース・検索ツール

●主要契約データベース

データベース名
Business Source Complete
CINAHL
CiNii
Conference Proceedings Citation Index
D1-Law.com
Journal Citation Reports
Lexis.com
ProQuest Central
ProQuest Dissertations & Theses Global
PsycINFO
SciFinder(Academic)
Web of Science
Westlaw Japan
医中誌Web

●学外への公開・発信

公開・提供内容
SCPJ(学協会著作権ポリシーDB)
茨城県遺跡資料リポジトリ
沖縄歴史文庫データベース
つくばサイエンスアクティビティ
つくばリポジトリ
展覧会ポスターデータベース
日本美術シソーラスデータベース(試験運用版)

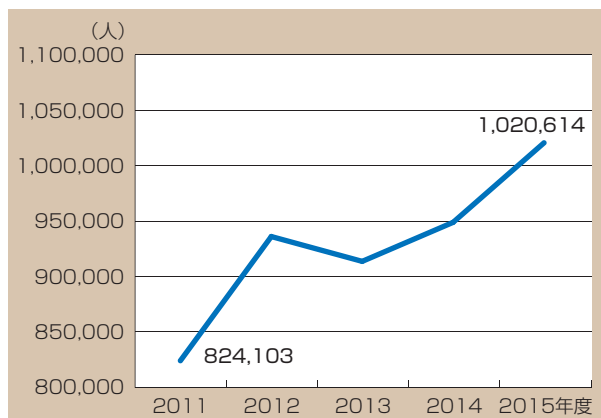
電子ブック契約タイトル 累積数 (※2015年度末現在)

内 訳	タイトル数	
	和	洋
Cambridge University Press	—	1,666
ebrary	—	459
Maruzen eBook Library	641	122
NetLibrary	329	1,016
Springer	—	22,548
Wiley-Blackwell	—	1,116
その他	6	3,027
合計	976	29,954

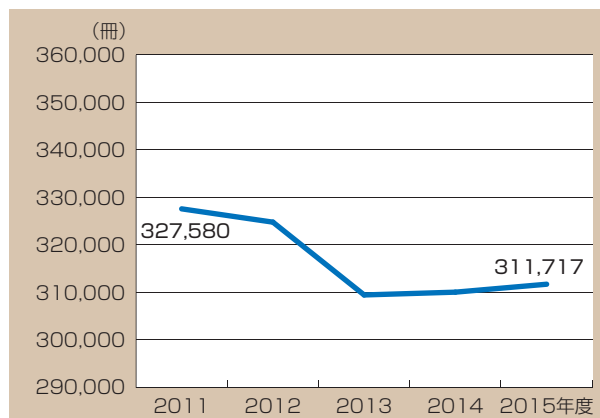
3.推移と分析

利用サービスの推移

●入館者数



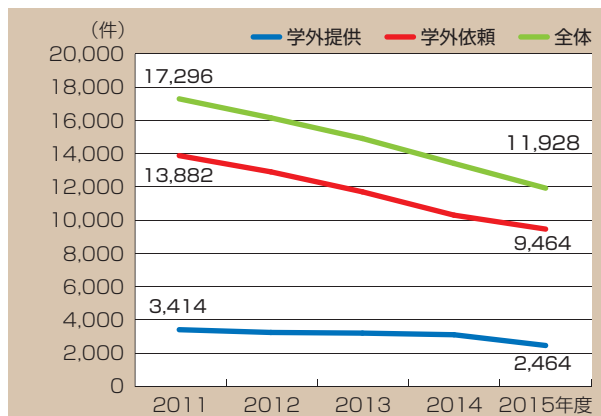
●貸出冊数



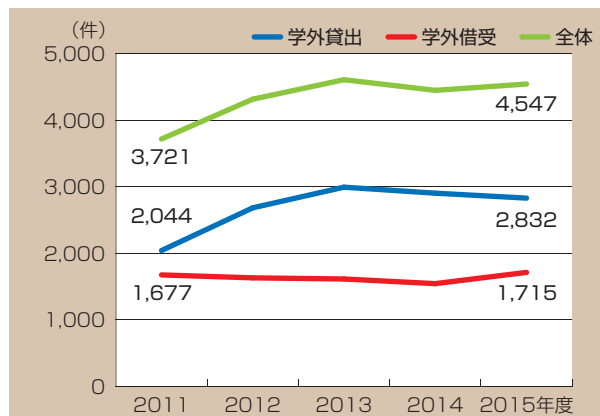
2015年度は2009年度以来6年ぶりに入館者数が100万人を超えました。この理由として、①2014年度までリニューアルを行っていた医学図書館が年間を通じて開館できたこと、②2011年3月の東日本大震災で大きな被害を受けた体芸図書館が順調に利用者を取り戻しつつあること、③筑波地区の専門図書館で試行を実施した早朝開館の効果が各館共通で見られたこと、④大塚図書館の学外者の利用が伸びていることなどが統計から判明しています。また、中央を含む各館ともに展示やセミナー開催などのイベントを積極的に実施し、利用者の関心を集め続けたことも全体としての利用者増につながったものと考えられます。

貸出数も引き続き上向き傾向ではありますが、今後も貸出動向を注視しながら学生の関心のある分野の充足を図っていく必要があります。

●文献複写(コピー)件数



●相互貸借(図書)件数

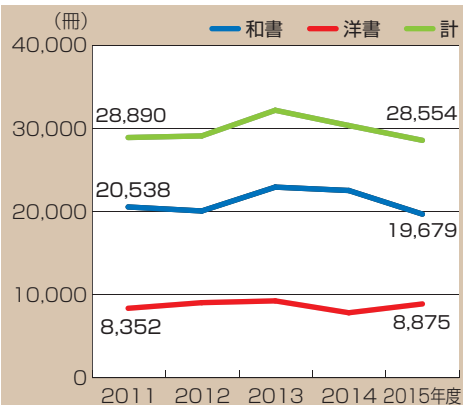


文献複写(コピー)件数は、電子ジャーナルの学内外での普及を背景に昨年度に引き続き減少しています。相互貸借(図書)件数は学外からの借受に若干の増加が見られ、必要とされる資料が学内にない場合に、学外との相互協力体制が有効に活用されていることを見て取ることができます。

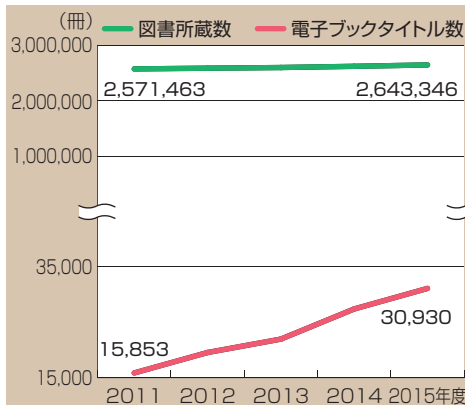
皆さんのご利用をお待ちしております

図書資料受入の推移

● 図書受入冊数 一和洋区分ー

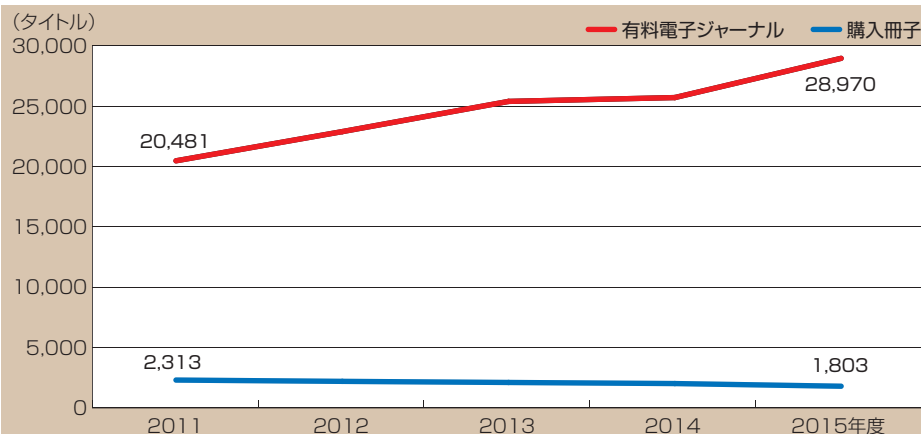


● 図書所蔵数・電子ブックタイトル数



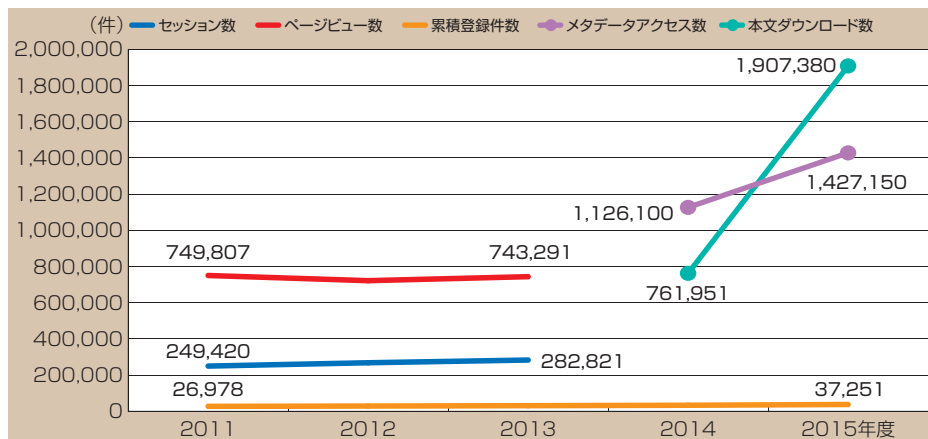
全体の受入冊数は2014年度に引き続き減少していますが、2008年に導入を開始した電子ブックについては、継続的にタイトル数が増加しており、3万タイトルを超えました。

雑誌タイトル数の推移

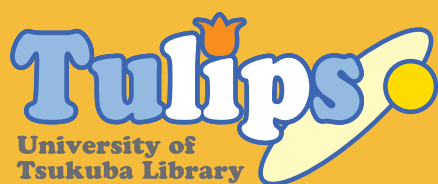


2014年度に引き続き、2015年度も本学共通経費による安定的な電子ジャーナルの提供が実現し、電子ジャーナルのタイトル数は増加しています。

つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



つくばリポジトリの累積登録件数は昨年度までと比べて伸び率が5%上昇しており、リポジトリによる研究成果の公開と蓄積が学内で引き続き定着しつつあることを読み取ることができます。同時に、リポジトリへのアクセス、ダウンロードを示す数値も順調に増加しており、登録された学術情報が有意義に活用されていることをうかがい知ることができます。11月に採択された「筑波大学オープンアクセス方針」による、登録と利用の更なる伸びが期待されます。



筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
 TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052
 E-mail voice@tulips.tsukuba.ac.jp
 URL <https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY ANNUAL REPORT 2015

15

平成28(2016)年5月31日発行
 デザイン印刷：マザータンク